2005年 社会・環境報告書

Social and Environmental Report

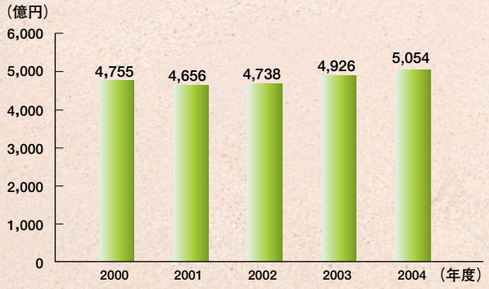
地球環境にやさしい会社を目指します

伊藤ハム

会社概要（2005年3月現在）

会社名	**伊藤ハム株式会社**
設立	1948年（昭和23年）
創業	1928年（昭和3年）
本社事務所	兵庫県西宮市高畑町4番27号
代表者	代表取締役社長　伊藤 正視
資本金	224億1,500万円
売上高	5,054億6,100万円（連結）
連結対象会社	連結子会社／46社 持分法適用関連会社／12社
従業員数	2,111人（連結：5,569人）
主な事業	●食肉加工品の製造及び販売 ●食肉の加工及び販売 ●調理加工食品、惣菜類の製造及び販売 など

売上高の推移（連結）



表紙のことば

［アカウミガメ］

体重180kgにまで成長するアカウミガメは、2億年以上前から地球に暮らす、私たちの先輩です。しかし、食用として乱獲されたり、海面に浮かぶビニールを好物のクラゲと間違えて飲み込んだりと、人間の活動によってその数が減っており、環境省の日本版レッドデータブックで希少種に指定されています。性の決定が、卵が孵化するまでの温度に依存していることから、温暖化による影響も危惧されています。

ごあいさつ

20世紀後半、先進国を中心とした目覚しい経済発展は、生活のレベルの向上と引き換えに、世界各地で大気汚染、水質の汚濁、土壌汚染といった公害問題を発生し、近年では、オゾン層の破壊や、地球温暖化といった地球規模の深刻な環境問題が顕在化してまいりました。こうした環境問題の解決は、人類全体にとって待ったなしの課題となっております。

環境問題は他人任せではなく、行政、企業、個人が各々の立場で自ら行動して解決にあたるべき問題です。良好な地球環境を保持し、持続可能な社会を実現するには、次世代を見据え、環境の変化に柔軟、迅速に対応しなければなりません。

こうした状況にあって弊社は、創業の精神である、社是「事業を通じて社会に奉仕する」のもとに策定された、経営理念の中に「環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践する」ことを明記いたしました。

環境保全活動は、1999年に策定した「環境基本方針」の中で掲げた「基本理念」、「行動指針」に基づいて、取り組んでまいりました。今後も、持続可能な社会の実現に向けて、グループは総力をあげ、継続して取り組んでまいります。

2004年度の環境活動は、以前から継続して取り組んでいる省エネルギー対策を、エネルギー使用量の多い工場を中心に実施いたしました。廃棄物対策では、廃棄物の削減と有効利用の促進を重点的に実施し、リサイクル率が大幅に向上いたしました。また、環境への対応能力を向上するため、マネジメントシステムの構築をすすめ、環境マネジメント能力の向上に努めております。

社会貢献活動では、森林保全活動を目的とする「こうべ森の学校」や、海岸、河川、湖沼のクリーンアップ活動、地域の学校での環境教育への参加など、地域の団体と協働で実施する環境活動の他に、ボランティア活動、各種支援活動を実施しており、地域社会と協調して環境保全活動を行う体制が整ってまいりました。これらの活動は今後も積極的、継続的に実施してまいります。

環境報告書は2000年の初版発行以来、弊社の環境活動を積極的に開示して、皆様との積極的なコミュニケーションを図り、経営のレベルアップにつなげることを重要な目的に発行しておりますが、2005年度は、これまでの「環境報告書」を「社会・環境報告書」に改め、弊社の取り組んでいるコンプライアンスの強化や、社会貢献活動、安全衛生と健康づくりの状況についての活動の概略をご報告することにいたしました。

社会との共生は非常に重要と考えており、真摯に取り組んでまいります。伊藤ハムグループの環境・社会活動の取り組みについて皆様の忌憚のないご示唆やご意見をいただければ幸甚に存じます。

2005年6月

代表取締役社長
伊藤正視

INDEX

会社概要／表紙のことば ……1
ごあいさつ ……2
「2005年 社会・環境報告書」について……3

○経営方針
社是／企業理念／経営理念 ……4

○環境報告
環境宣言／基本理念／行動指針
1. 第2次中期環境目標の取り組み結果と自己評価 ……6
2. 環境と私たちの関係をご紹介します……7
3. 2004年度の活動ハイライト……9
4. 環境マネジメント ……10
環境マネジメントの推進組織／環境監査／ISO14001認証取得／グリーン購入
関係法規及び法の遵守／環境クレーム・事故／緊急時の対応策／環境会計
5. 環境負荷低減の取り組み ……14
省エネルギーの取り組み／廃棄物の削減と有効利用／温室効果ガスと化学物質の排出抑制
その他の環境負荷低減活動
6. 環境コミュニケーション ……18
情報開示／従業員教育・地域とのコミュニケーション
7. 環境保全活動の沿革 ……20

○社会性報告
伊藤ハムグループ経営ビジョンより
1. コンプライアンス ……22
企業倫理規範
2. 社会貢献活動 ……23
社会貢献活動理念／活動方針／大切な自然を保護する活動／支援活動など
安全衛生と健康づくり／その他の社会性報告
みんなの声 ……28

○環境データ集
伊藤ハムグループの環境データ ……29
サイトデータ（伊藤ハム・関連会社） ……31

○環境を守るための工場での取り組み ……37

「2005年 社会・環境報告書」について

編集方針

2000年から「環境報告書」を発行し、今回で6回目の発行となります。
2005年報告書では社会的側面をより一層充実させ、タイトルを「社会・環境報告書」と変更しました。
本報告書は、伊藤ハムグループの環境保全活動の取り組み内容とその結果、社会活動などを誠実に分かりやすくお伝えし、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを促進することを目的に発行しています。
より多くの皆様にお読みいただき、伊藤ハムグループの環境保全活動、社会活動をご理解いただけるようにページ構成、写真、図表などの表現の工夫に努めました。
是非、本報告書をご高覧いただき、今後の活動や課題に対して忌憚のないご意見・ご要望を賜り、今後の環境保全活動、社会活動に生かしたいと思います。
報告内容については、環境省「環境報告書ガイドライン（2003年度版）」を参考にしています。

対象範囲

◇報告対象組織　基本的には伊藤ハム株式会社の取り組みを報告していますが、一部の報告ではグループ会社についても取り上げています。
*エネルギー、廃棄物、大気、水域への排出などにかかわる実績については、伊藤ハムの生産6工場とグループのハム・ソーセージ生産主要3工場のデータを集計しました。
伊藤ハム株式会社：九州工場、六甲工場、西宮工場、豊橋工場、東京工場、船橋工場
伊藤ハムデイリー株式会社：東北工場、小樽工場
伊藤ハム食品株式会社：小矢部工場
*サンキョーミート株式会社、伊藤ハム物流株式会社については、サイトデータの中でのみ掲載しています。
◇報告対象分野　事業活動にともなう環境的側面の計画・取り組み・結果を中心に、社会的側面についても報告しています。
◇対象期間　基本的には、2004年度（2004年4月1日～2005年3月31日）の取り組みを報告していますが、一部では2004年度以前・以降についても報告しています。

報告期間中の組織の重大な変化

2005年3月25日、惣菜生産工場の「伊藤ハム株式会社神戸工場」（神戸市東灘区）が開設し、2005年4月1日より生産を開始しました。

経営方針

伊藤ハムグループは、社会から信頼される企業であり続けるために、地球環境への配慮、企業倫理の遵守、社会貢献活動などを通して、 社会の一員としての責任を果たしています。これらの伊藤ハムグループの姿勢の基本となるものが「社是」「企業理念」「経営理念」であり、従業員一人ひとりがどのように行動すべきかを具体化したものが「行動規範」です。

社　是

事業を通じて社会に奉仕する

企業理念

1. 企業理念

お客様（顧客）の「信用」と「信頼」から「安全」と「安心」が生まれます。「安心」こそが伊藤ハムブランドのすべてです。ブランド力を日々強化し、企業価値を高めていく事が社会的貢献であり私達の使命です。

2. 経営姿勢

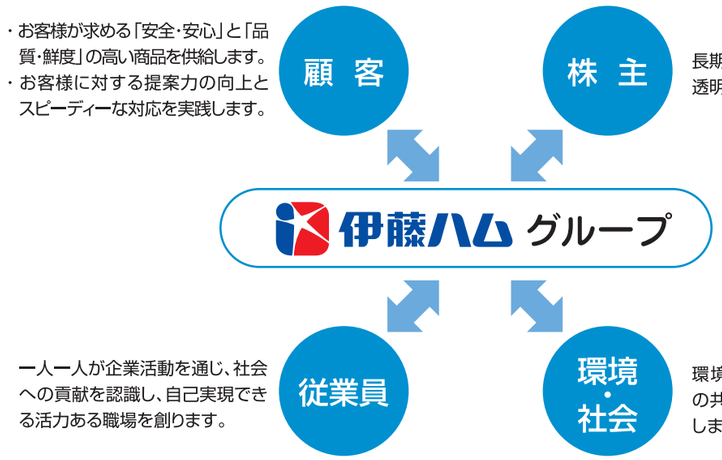
- 顧客中心主義に徹すると共に変化対応能力を高め、その実践を重んじます。
- 人事は能力主義、成果主義を重視し、何事にも挑戦意欲を尊び、活力ある職場を目指します。

3. 行動規範

- あらゆる法令や会社の規則を遵守し、社会的良識に沿って行動します。
- すべての業務は「受注」につながり、顧客の「リピート」に帰着します。そのような認識のもとに情報を共有し、スピードとコミュニケーションの大切さを心して考動します。
- 「強く　正しく　逞しく」の伝統精神のもと、自己責任原則を徹底します。

経営理念

伊藤ハムグループは、真心を込めたサービスと高品質で、お客様の健康と豊かな食文化に貢献します。



従業員が携帯する「従業員心得」

環境宣言

弊社は創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」ことを社是として、食品の安全と品質の向上に努め、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。

一方、1980年代後半から環境問題が地球規模となり、経営の新しいパラダイムが求められてまいりました。私たちはこの変化に対応し、継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を通じて、経営品質の高揚を図るべく新たに環境にかかわる基本理念を掲げ、全従業員が一丸となった活動を展開することを宣言します。

基本理念

私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

行動指針

1. 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
2. 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
3. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
4. 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
5. 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。
6. 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
7. 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
8. 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、社会・環境報告書により情報開示します。

1 第2次中期環境目標の取り組み結果と自己評価

2004年4月、「伊藤ハムグループ2004−2006年度中期経営計画」が策定されました。それにともない、2003年度を基準年度、2006年度を目標年度とする「第2次中期環境目標」を設定しました。

初年度（2004年度）の取り組み結果と自己評価は次のとおりです。今後、2006年度の目標達成に向けて、より一層取り組みを推進してまいります。

第2次中期環境目標

項目	指標	基準年度（2003年度）	2004年度目標値 数値	2004年度目標値 増減	2004年度結果 数値	2004年度結果 増減	評価	最終年度（2006年度）目標値
1）省エネルギー、省資源の推進	・総エネルギー使用量（l/t）	442	435	▲1.5%	469	6.1%	☂	▲4.0%
	・用水使用量（m³/t）	31.9	31.5	▲1.5%	35.3	10.7%	☂	▲4.0%
2）廃棄物の削減とリサイクルの推進	・廃棄物排出量（kg/t）	189	186	▲1.5%	196	3.7%	☂	▲4.0%
	・リサイクル率（%）	89.4	93.0	3.6ポイント	91.7	2.3ポイント	☁	100%
3）温室効果ガスの排出削減	・二酸化炭素（CO_2）排出量（kg-CO_2/t）	809	797	▲1.5%	866	7.0%	☂	▲4.0%
4）グリーン購入の推進	・事務用品のグリーン購入率（%）	59.4	72.9	13.5ポイント	82.9	23.5ポイント	◎	100%
	・事務機器のグリーン購入率（%）	100.0	100.0	—	85.1	▲14.9ポイント	☂	100%
5）環境管理体制の充実	・グループ会社のISO14001認証取得推進 ・環境監査の継続実施							

※1）〜3）は生産原単位　※総エネルギー:原油換算（購入電力＋燃料＋購入蒸気）　※5）は単年度目標を設定していません。継続して推進、実施します。

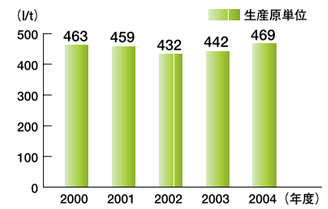
1）省エネルギー、省資源の推進

総エネルギー生産原単位は6.1%増加しました

自己評価 ☂

詳しくは14ページ

●総エネルギー使用量の推移



用水生産原単位は10.7%増加しました

自己評価 ☂

詳しくは14ページ

●用水使用量の推移

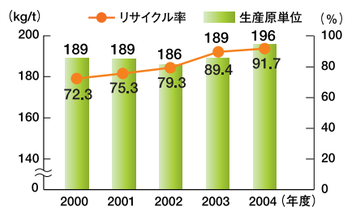
2）廃棄物の削減とリサイクルの推進

廃棄物生産原単位は3.7%増加。リサイクル率を2.3ポイント高めました。

自己評価 ☂ 廃棄物排出量　☁ リサイクル率

詳しくは15ページ

●廃棄物排出量とリサイクル率の推移



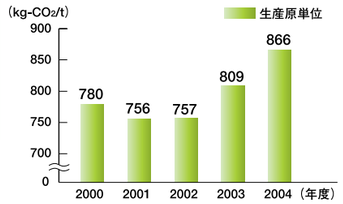
3）温室効果ガスの排出削減

二酸化炭素（CO_2）生産原単位は7.0%増加しました

自己評価 ☂

詳しくは16ページ

●二酸化炭素（CO_2）の排出量の推移



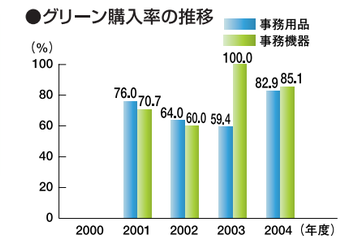
4）グリーン購入の推進

事務用品のグリーン購入率を23.5ポイント高めました（事務機器は14.9ポイント低下しました）

自己評価 ◎ 事務用品　☂ 事務機器

詳しくは11ページ

●グリーン購入率の推移



※2000年度にグリーン購入基本方針を制定し、2001年度よりデータ集計を開始しました。

5）環境管理体制の充実

ISO14001の認証取得と環境監査の実施については継続して取り組んでまいります。

項目	2004年度の結果
ISO14001	1事業所で認証取得（累計13事業所）
環境監査	6事業所で実施

自己評価

◎ 2004年度の実績値が目標値の100%以上でした。

☁ 2004年度の実績値が目標値を下回りましたが、基準年度より改善されました。

☂ 2004年度の実績値が基準年度を下回りました。継続して、より一層取り組みを進めます。

2 環境と私たちの関係をご紹介します

未来の地球を守るための課題

地球環境問題は、私たちが暮らしている地球で起こっています。地球が今どうなっているのか、未来の子どもたちに豊かな地球環境を残していくためにはこれから先どうしたら良いのか、私たちが考え、実行していかなければなりません。

地球の温暖化が進んでいます

近年の人間活動によって二酸化炭素などの温室効果ガスの濃度が高まり、気温が徐々に上昇する「地球温暖化」が進んで います。

資源の枯渇が心配になってきています

私たちの暮らしを支えてくれる石油や天然ガス、石炭、あるいは金属や森林資源などは、すべて限りのある地球の資源です。貴重な資源を守り廃棄物を削減するためにも、循環型社会の形成が叫ばれています。

環境汚染が進んでいます

私たちの暮らしや事業活動によって、さまざまな物質が大気や水域に排出されています。その中には、大気や水を汚したり生態系へ影響をもたらすものなどがあり、大きな問題になっています。

ハム・ソーセージなどをつくるために必要な原材料やエネルギー

総エネルギー投入量	物質投入量
●電力‥154,522千kwh	●原料肉‥106,229t
●燃料‥‥29,470kl	●包装材料‥‥4,813t
●用水‥‥ 4,614千m³	●副原料

INPUT

生産活動

生産量130,653t

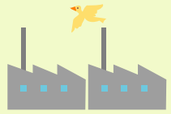
OUTPUT

水域への排出

排出量‥‥ 4,153千m³
BOD‥‥‥‥‥47t
窒素‥‥‥‥‥ 25t
りん‥‥‥‥‥‥ 9t

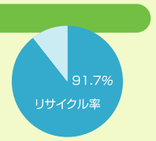
大気への排出

CO_2‥ 113,124t-CO_2
SOx‥‥‥‥18t-SO_2
NOx‥‥‥ 193t-NO_2



廃棄物の排出

総排出量‥‥‥25,565t
リサイクル量‥23,452t
リサイクル率‥‥ 91.7%



OUTPUT

製　品

OUTPUT

運　搬

OUTPUT

大気への排出

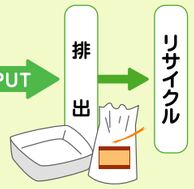
CO_2‥‥‥ 8,676t-CO_2

物流拠点 → 営業拠点 → お取引先（店舗）

OUTPUT

お客様

OUTPUT



伊藤ハムグループ各社 ← 再商品化委託契約 → 日本容器包装リサイクル協会

伊藤ハムグループ各社 ← 委託料金支払い → 日本容器包装リサイクル協会

伊藤ハムの環境の取り組み

地球環境問題は、私たちが行う事業活動と密接に関係しており、事業活動にともなう環境への負荷は可能な限り低減していかなければなりません。豊かな地球環境を残していくために、さまざまな活動に取り組んでいます。

省エネルギー、温暖化防止の取り組み

伊藤ハムの事業活動で消費するエネルギーは、事業活動にともなう環境負荷の中でも大きな比重を占めており、省エネルギーの取り組みは最重要課題に位置付けています。

P14、P16

廃棄物の削減とリサイクル

廃棄物の発生抑制を最優先に、廃棄物の削減とリサイクルに取り組んでいます。発生した廃棄物ごとにリサイクルを検討し、単純焼却や埋め立て処分を最小限にするように努めています。

P15

環境汚染物質の排出抑制

法規制値よりも厳しい自主基準を設定して大気汚染物質の排出を抑制したり、適切な廃水処理をほどこすなど、環境汚染の防止に努めています。

P16

環境の社会貢献活動

事業活動で使用する水環境の保全や森林保全などに関係する社会活動を行っています。

水辺のクリーンアップ活動や森林の間伐作業など自然環境を保護する活動を進めています。

P23～25

環境活動 Q&A

Q 生産工場の日々の環境管理活動は、どのようにして行っているの？

A 生産工場には環境管理室（あるいはES室）などの、環境管理活動を専門に行う組織を設けています。環境管理室のメンバーを中心にして、生産現場の協力を得て、省エネ・省資源、排水・廃棄物の管理など、環境管理活動を進めています。

3 2004年度の活動ハイライト

伊藤ハムグループでは、事業活動における環境負荷を低減し、持続可能な社会の構築に貢献するために、さまざまな取り組みを継続して行っています。ここでは、2004年度に行った取り組み内容をハイライトでご紹介します。

環境監査の実施

監査計画に沿い、環境監査を継続して実施しています。2004年度はグループ6工場の監査を実施しました。問題点の早期発見と早期是正に取り組んでいます。

環境監査（豊橋工場）

詳しくは ▶ P10

緊急時の対応訓練の実施

ISO14001認証取得事業所では、環境汚染や事故などの突発的事態の発生に備えて、定期的に訓練を実施しています。

化学薬品の漏洩対応訓練（船橋工場）

詳しくは ▶ P12

省エネルギーの取り組み

電力、燃料の使用量削減のため、冷凍機や変圧器の更新、負荷に合わせた効率的な設備の運転などの省エネルギーの取り組みを進めました。

変圧器（西宮工場）

冷凍機（東北工場）

詳しくは ▶ P14

廃棄物の削減

豊橋工場では、廃棄物排出量全体の約60％を占める汚泥を削減するために、廃水処理施設の増強・改修を実施しました。

廃水処理施設（豊橋工場）

詳しくは ▶ P15

環境ボランティア体験学習

ボランティアへの参加意識を高めるため、従業員と家族を対象とした、自主プログラムによるボランティア体験活動を定期的に開催しています。

課外授業「こうべ森の学校」

クリーンアップ in 甲子園浜

詳しくは ▶ P19

環境の社会活動

森林保全活動やビーチクリーンアップ活動など、各地域でさまざまな環境の社会活動に継続して取り組んでいます。

森林保全活動「こうべ森の学校」

ビーチクリーンアップ in SUMA（須磨海岸）

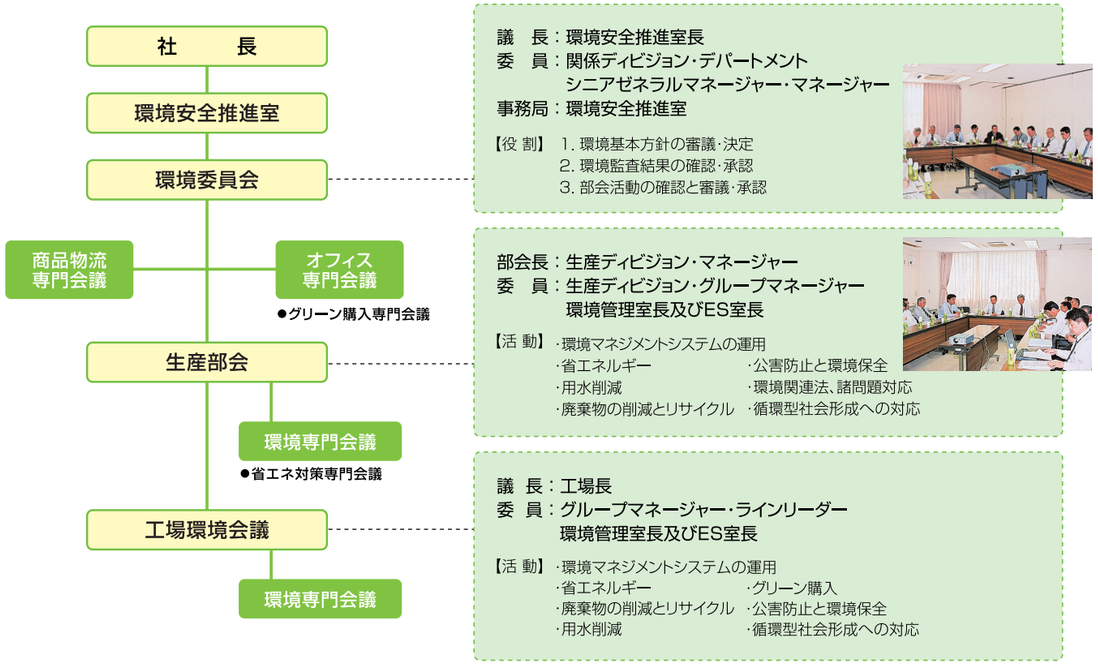
詳しくは ▶ P24・P25

4 環境マネジメント

環境保全活動の効果を高め、持続可能な社会の構築に貢献していくために、環境マネジメントシステムを導入しています。環境側面の継続的な改善を図るため、さまざまな活動に取り組んでいます。

環境マネジメントの推進組織

環境マネジメントを推進し、資源・エネルギー問題をはじめ、廃棄物問題などに対して迅速かつ円滑に対応できるような環境管理体制を構築しています。環境課題・目標設定など全社的な事項は「環境委員会」で審議・決定し、工場主体で対応する事項は「工場環境会議」で審議・実行しています。また、発生する諸問題へは、必要に応じて専門部会を開催して対応しています。環境委員会での決定事項については、会社組織や各部会などを通じて全事業所に周知徹底しています。



環境監査

ISO14001認証取得事業所では事業所自身による内部環境監査を実施していますが、これとは別に、環境汚染や環境事故を防止し、環境保全活動のより一層のレベルアップを図るために、本社・環境安全推進室と工場環境管理責任者などで構成する監査チームが、年度の環境監査計画に沿って主要事業所の監査を行い、継続的改善を行っています。

書類監査（六甲工場）

2004年度に監査した事業所

伊藤ハム：六甲工場・東京工場・西宮工場・豊橋工場

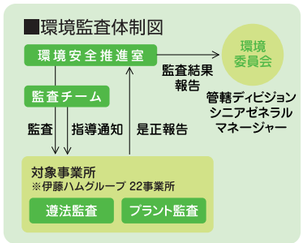
関連会社：サンキョーミート（株）有明ミート工場・霧島ミート工場

監査項目

環境関連法遵守状況、公害防止管理、廃棄物管理、化学物質管理、環境パフォーマンス管理　など

監査結果

2004年度の監査の結果、遵法状況と環境関連施設などの管理状況に、大きな問題はありませんでした。



環境活動 Q&A

Q 環境監査計画は、誰がたてるの？

A 年度の初めに本社・環境安全推進室が、対象22事業所に対し、それぞれ2年に1度の割合で監査が実施されるよう、対象事業所管轄ディビジョンと事前調整の上、策定しています。

ISO14001認証取得

環境マネジメントを効果的に行い、継続的な改善を実施するために、国際標準規格であるISO14001の認証取得を進めています。

伊藤ハムでは、2003年5月にすべての生産工場において認証取得を完了しています。

2004年度は、5月に伊藤ハムデイリー（株）東北工場が認証取得しました。また、非生産拠点では、2004年3月にデイリー物流（株）が認証取得しています。

ISO14001認証取得事業所では、それぞれの事業所で環境方針と目的・目標を定め、継続的な改善に取り組んでいます。

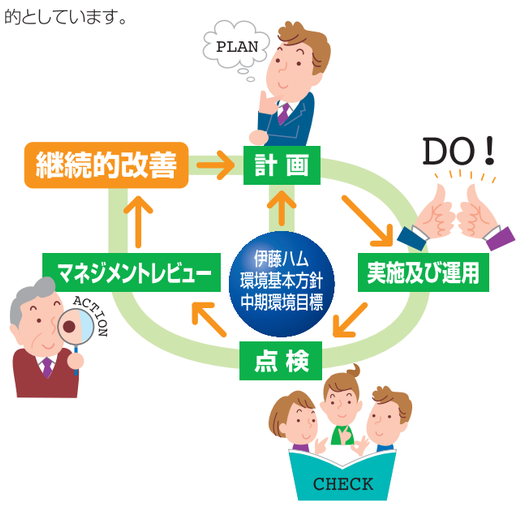
現在、関連会社において認証取得を進めており、引き続きグループ全体の環境マネジメントの充実に取り組んでいきます。

認証取得事業所一覧 ▶ P30

ISO14001審査風景（東北工場）

PDCAサイクル

組織が自ら環境方針及び目的を定め、その実現のための計画（Plan）を立て、それを実施及び運用（Do）し、その結果を点検（Check）し、さらに次のステップを目指した見直し（Action）を行うというPDCAサイクルを確立し、循環させます。それによって、環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境に与える負荷を減少させることを目的としています。



グリーン購入

伊藤ハムでは、2000年からグリーン購入に取り組んでいます。「グリーン購入基本方針」と「グリーン購入ガイドライン」を制定し、省エネ・省資源など、環境に配慮した物品の優先的な購入に取り組んでいます。

これからも引き続き、環境に配慮した物品購入に取り組んでいきます。

グリーン購入一覧 ▶ P30

【グリーン購入基本方針】（2000年制定）

地球環境問題が深刻化する中で、持続可能な社会をいかに実現するかが世界共通の課題になっています。その実現のための取り組みの一つとして、経済活動を支える全ての製品やサービスで、環境に与える負荷ができるだけ小さい製品の優先的購入を進める必要があります。資源採取から廃棄までの製品のライフサイクルを考慮して、「環境汚染物質の削減」、「省エネルギー・省資源」、「持続可能な資源の利用」、「長期使用可能」、「再使用可能」、「再生素材等の利用」、「処理・処分の容易性」等の観点から製品、資材等の購入を行い、「廃棄物の減量化」と「環境負荷低減」をめざします。

【グリーン購入基本原則】（2000年制定）

1. 二酸化炭素などの地球温暖化ガス、フロンなどのオゾン層破壊物質、窒素酸化物などの大気汚染物質など、環境や人の健康への被害を生ずる恐れのある物質を使用しないか、使用量を削減していることを配慮したものとする。
2. 資源の枯渇問題を考え、省資源や省エネルギーに配慮したものとする。
3. 持続可能な資源利用に配慮したものとする。
4. 修理や部品交換の容易さ、保守・修理サービス期間の長さ、拡張機能性を考慮して、長期使用可能に配慮したものとする。
5. 再使用が可能で、その使用回数が多くなることを配慮したものとする。
6. リサイクルしやすい素材の使用や、素材ごとに分離・分解・分別がしやすいことに配慮したものとする。
7. 製品は、再生された材料及び再生品使用比率の高い材料を使用したものに配慮したものとする。
8. 廃棄される時に処理・処分が容易であることに配慮したものとする。
9. ISO14001認証取得及び環境に配慮する情報を公開し、環境保全に積極的な事業者が製造・販売している製品を配慮する。
10. 製品や製造・販売事業者に関する環境情報を積極的に入手して活用する。

GPN Green Purchasing Network

伊藤ハム株式会社は、グリーン購入ネットワークの会員です。

関係法規及び法の遵守

環境汚染防止の観点から、事業活動にかかわる環境関連法や各地域の環境保全協定の遵守はもちろんのこと、より厳しい自主基準値を設けて環境管理に取り組んでいます。特に、ISO14001を認証取得した事業所では、定期的なチェックを実施し、法令遵守状況を確認しています。

伊藤ハムグループの事業所に適用される環境関連法の主なものには次のようなものがあります。

なお、2004年度は環境関連法規に対する違反事項はありませんでした。

- ●大気汚染防止法
- ●水質汚濁防止法
- ●特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- ●廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）
- ●食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）
- ●資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）
- ●容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律（容器包装リサイクル法）
- ●特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律（フロン回収破壊法）
- ●特定の化学物質の環境への排出量等の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）
- ●エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネルギー法）
- ●労働安全衛生法
- ●自治体との環境保全協定　　など

環境クレーム・事故

2004年度は、悪臭・騒音に関するものが3件ありました。いただいた情報はその都度、迅速な対応を行っています。対応策実施後、先様に効果を確認し、ご了解いただいています。

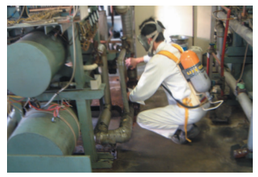
クレーム	内容	対応策
悪臭1件	悪臭防止法および県条例に基づく、ノルマル酪酸の基準値超過に対する行政機関からの指摘がありました。	指摘を受けた後、測定を重ねた結果、排出規制値をクリアーできる数値でしたが、今後年間を通じて気象条件の相違による臭気濃度の傾向を促えるため、臭気測定を定期的に実施することにしました。
騒音2件	午前4時台に機械音が約1時間続き、気になって眠れない。	調査の結果、スモークハウスの排気ファンの音と判明。スモークハウスの運転時間を変更しました。
	工場の方から音がする。	調査の結果、洗浄室の排気ファンのベアリング不良が原因と判明し、ベアリングを交換しました。

緊急時の対応策

サイトの管理範囲外や敷地外への環境汚染や事故などの突発的事態を想定し、影響の拡散を防ぎ汚染を最小限に抑えるとともに、早期に修復するために、環境マネジメントシステムの緊急時の処置手順に沿って、定期的に訓練を実施しています。万一事故が発生したときには、社内間での連絡と地域住民、行政機関への連絡を円滑に行うため、「環境関連の緊急時連絡システム」を運用しています。

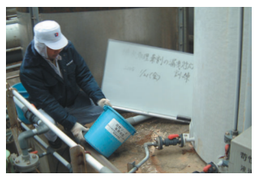
■ 2004年度の主な緊急時の訓練実施状況

事業所名	訓練の内容	参加者数
伊藤ハム株式会社		
九州工場	フロンR−22の漏洩対応訓練など	7人
六甲工場	機械廃油の漏洩対応訓練など	7人
西宮工場	廃水処理薬品の漏洩対応訓練など	24人
豊橋工場	重油の漏洩対応訓練など	24人
東京工場	化学薬品の漏洩対応訓練など	24人
船橋工場	フロンR−22の漏洩対応訓練など	40人
伊藤ハムデイリー株式会社		
東北工場	廃水処理用薬品の漏洩対応訓練など	14人
サンキョーミート株式会社		
有明ミート工場	重油の漏洩対応訓練など	6人
霧島ミート工場	火災発生対応訓練など	67人
ファーム事業ユニット	汚水漏洩対応訓練など	3人
デイリー物流株式会社		
本社・物流センター	火災発生対応訓練など	123人



フロンR−22の漏洩対応訓練（九州工場）

化学薬品の漏洩対応訓練（東京工場）



廃水処理薬品の漏洩対応訓練（西宮工場）

重油の漏洩対応訓練（有明ミート工場）

火災発生対応訓練（霧島ミート工場）

環境活動 Q&A

Q ISO14001は改訂されたっていうけど、どういうことなの？

A ISO14001は、品質の規格であるISO9001:2000との両立化及び内容の明確化のため、2004年11月にISO14001:2004に改訂されました。2004年版への移行猶予期間は18ヵ月与えられており、伊藤ハムグループのISO14001認証取得事業所では、環境文書の見直しなど準備を進めているところです。

環境会計

2001年度より導入した環境会計は4期目を迎えました。2004年度は環境保全コストについて、前期との比較検証を可能とするため、投資額、費用額の前期実績及び増減を記載しています。

集計は、環境省「環境会計ガイドライン（2002年度版）」に準拠した「伊藤ハムグループ環境会計集計マニュアル（2002年度版）」により集計しています。

2004年度環境会計の分析

投資については、豊橋工場の廃水処理施設の増強改修、九州工場、東北工場の冷凍機更新などによって、事業エリア内コストが前期よりも増加しました。費用額は北神加工センター事業所閉鎖のため、前期よりも減少しました。

今後の課題

集計範囲の拡大、データ集計方法のシステム化を検討し、集計精度の向上を図る予定です。

環境保全コスト

（単位:千円）

分　類	主な取り組み内容	投資額			費用額		
		当期	前期	増減	当期	前期	増減
事業エリア内コスト		225,392	184,137	41,255	1,049,728	1,179,253	▲129,525
公害防止コスト	廃水処理設備の改善・環境関連設備の維持管理	166,387	149,835	16,552	556,315	625,182	▲68,867
地球環境保全コスト	省エネルギー設備の設置、対策費用	57,795	28,738	29,057	129,608	147,902	▲18,294
資源循環コスト	廃棄物のリサイクル及び処理処分費用	1,210	5,564	▲4,354	363,805	406,169	▲42,364
上・下流コスト	容器包装リサイクル委託料	0	600	▲600	131,094	85,425	45,669
管理活動コスト	ISOマネジメントシステムの構築及び維持、社員教育他	1,825	1,550	275	59,728	87,301	▲27,573
研究開発コスト		0	0	0	0	0	0
社会活動コスト	工場緑化・その他の環境活動費用	14,500	0	14,500	16,456	32,523	▲16,067
環境損傷対応コスト	重油燃料使用にともなう汚染賦課金	0	0	0	3,049	2,911	138
合　　計		241,717	186,287	55,430	1,260,055	1,387,413	▲127,358

環境保全効果

効果の内容		指標の分類	指標の値	
			総　量	原単位調整量
事業エリア内コストに対応する効果	事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギーの投入（kl）	3,585	▲3,530
		用水の投入（千m³）	73	▲441
	事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	二酸化炭素（CO_2）の排出（t）	5,621	▲7,409
		廃棄物の排出（t）	2,157	▲885

*指標の値　総量：前期に対する削減量【前期投入量（排出量）－当期投入量（排出量）】
原単位調整量：生産原単位を加味した削減量【前期投入量（排出量）×（当期生産量／前期生産量）－当期投入量（排出量）】
*当期生産量＝130,653t、前期生産量＝146,756t
*エネルギーの投入量は、購入電力、燃料、購入蒸気を原油換算した値（kl）

環境保全対策にともなう経済効果

（単位:千円）

効果の内容		総金額	原単位調整金額
収　益	廃棄物の有価売却による収益	9,163	8,157
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減（電力+燃料+購入蒸気）	167,389	▲140,212
	用水にかかる費用の削減	52,096	9,237
	廃棄物処理費の削減	51,428	6,765

*指標の値　収益：当期収益
費用削減：前期に対する費用削減額【前期費用－当期費用】
原単位調整金額：生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×（当期生産量／前期生産量）－当期費用】

集計方法

1. 投資額及び減価償却費は、100%環境目的のもののほか、環境改善機能を有する生産設備については按分集計しています。
2. 環境保全効果及び経済効果については、効果の総量（総金額）と原単位調整量（金額）の両方で集計しました。
3. 公表フォーマットは「環境会計ガイドライン（2002年度版）」に沿っています。

2004年度の集計結果

集計期間：2004年4月1日～2005年3月31日
集計範囲：伊藤ハム株式会社（九州工場、六甲工場、西宮工場、豊橋工場、東京工場、船橋工場）
伊藤ハムデイリー株式会社（東北工場、小樽工場）
伊藤ハム食品株式会社（小矢部工場）

5 環境負荷低減の取り組み

生産工場やオフィス部門において、電力・燃料・用水使用量の削減、廃棄物や温室効果ガスの削減など事業活動にかかわる環境負荷を低減するための取り組みを積極的に推進しています。

省エネルギーの取り組み

生産工場で消費するエネルギーは伊藤ハムグループの事業活動にともなう環境負荷の中で大きな比重を占めています。第2次中期環境目標の第一の指標としてエネルギー使用量の削減を掲げ、目標達成に向けて取り組みを進めています。第2次中期環境目標（3ヵ年計画）の1年目となる2004年度は事業所の閉鎖や生産品目の構成が変化し、生産原単位の目標値を達成できませんでした。3ヵ年計画の最終年度となる2006年度の目標達成を目指し、エネルギー使用量の削減に取り組んでいます。

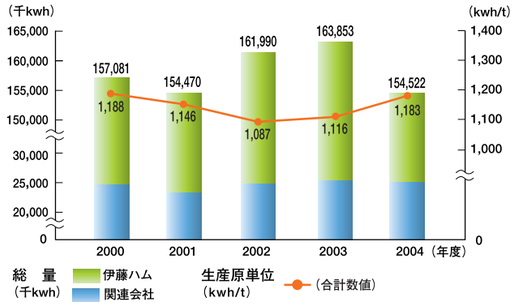
電力使用量の削減

2004年度の使用量は生産量が減少したため、前年度比5.6%減少しましたが、生産原単位では生産品目の構成の変化などのため、前年度比6.1%増加しました。2004年度に実施した省エネルギー対策として、大型冷凍機から小型の高効率型冷凍機への更新、変圧器の更新、高効率型照明器具への切り替えなどを実施しました。

小型高効率型冷凍機（九州工場）

変圧器（豊橋工場）

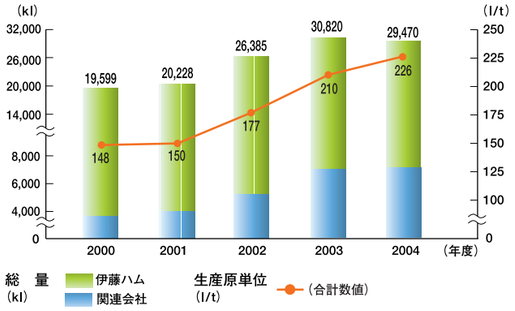
■ 電力使用量の推移



燃料使用量の削減

2004年度はボイラーの稼働時間の適正化などを実施しました。生産量が減少したため、使用量は前年度比4.3%減少しましたが、生産原単位では生産品目の構成の変化などのため、前年度比7.7%増加しました。

■ 燃料使用量の推移



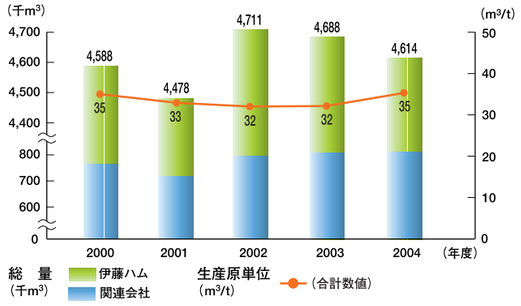
用水使用量の削減

2004年度はデフロスト水を必要としない冷凍機への更新、冷凍機更新によるクーリングタワーの廃止、設備・食品加工機械などの洗浄の際、ガンノズルの使用などを実施しました。使用量は生産量が減少したため、前年度比1.5%減少しましたが、生産原単位では生産品目の構成の変化などのため、前年度比10.7%増加しました。

冷凍機（東北工場）

ガンノズルを使用した洗浄（小樽工場）

■ 用水使用量の推移



環境活動 Q&A

Q 食品加工機械などの洗浄で使われた水は、どこへ流れていくの？

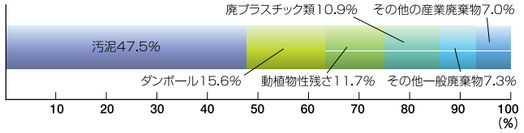
A 作業場からの排水管を経て、廃水処理設備に流れます。そこで汚濁物と水を分離、法令や条例で定められた排水基準まで浄化した後、下水道や河川などへ放流しています。汚濁物（＝汚泥）は廃棄物処理施設に搬送し、リサイクルされ土壌改良剤となります。

廃棄物の削減と有効利用

廃棄物の削減と有効利用について、エネルギーの使用量削減と同じく第2次中期環境目標の重要な指標に掲げています。特に多量の廃棄物を排出する主要生産工場には、廃棄物計量システムを導入し、そこから得た排出データを分析した上で部署ごとに削減目標を設定し、発生を抑制するための対策を実施しています。また、単純焼却や埋め立て処分を最小限とするため、分別排出の徹底、リサイクル率向上に努めています。

排出量の割合

生産工場から排出される廃棄物の割合は以下のとおりです。

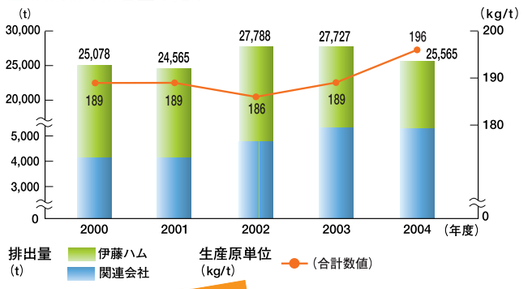


廃棄物の削減

原料処理工程における歩留まりの向上や生産工程の改善、設備・機械の改良により、食品廃棄物の削減に取り組むとともに、包装工程における包装フィルムの切り替え時の廃棄ロス削減などによる廃プラスチック類の削減、廃水処理施設の増強・改修による汚泥の削減などに取り組みました。しかし、2004年度は生産品目の構成の変化、また、全体の生産量が減少したことなどにより廃棄物の排出量の生産原単位は前年度比3.7%増加しました。

廃水処理施設増強
【曝気槽内揺動床の設置状況】(豊橋工場)

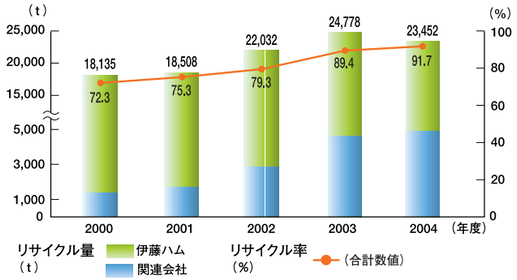
■ 廃棄物の排出量の推移



廃棄物の有効利用

廃棄物の分別を徹底し、廃棄物ごとの有効利用を進めた結果、リサイクル率は前年度比2.3ポイントアップの91.7%となりました。2006年度中にはリサイクル率100%を達成できるよう一層の努力をします。

■ リサイクル量とリサイクル率の推移



食品廃棄物のリサイクル

食品リサイクル法では、生産工程などで発生する食品廃棄物を2006年までに20%以上再生利用等をしなければならないとされています。

伊藤ハムグループの生産工場では、規格に合った原料を仕入れて使用の合理化に努めたり、食品加工機械やコンベアーに受け皿やカバーを取り付けるなどの工夫、食品加工機械のメンテナンスを定期的に実施するなど食品廃棄物の発生抑制に努めています。生産工程で発生したくず肉・脂などの食品廃棄物は、リサイクルに支障をきたさないように分別を徹底し、肥料や飼料などへリサイクルしています。

※現在、9工場の食品廃棄物のリサイクル率は、95.8%となっています。

TOPICS

食品廃棄物のリサイクルフロー(豊橋工場、東京工場)

豊橋工場、東京工場では、生産工程から発生する食品廃棄物の一部をリサイクル飼料として有効利用しています。食品廃棄物は異物混入がないよう細心の注意を払い分別し、出荷専用の容器に入れ、出荷するまで冷蔵庫で保管しています。

【他の工場では、食品廃棄物は概ね外部の再生処理業者に委託し、発酵後熟成し、有機肥料にリサイクルしています。】

エコステーション動植物性残さ保管庫(右端)
出荷

温室効果ガスと化学物質の排出抑制

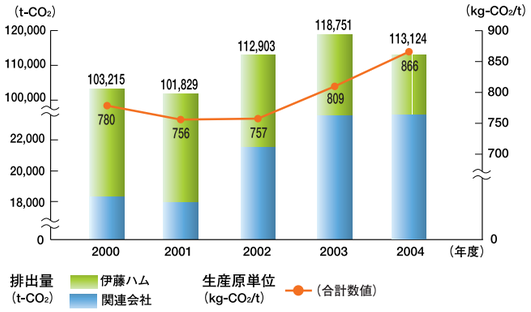
地球温暖化防止のため、事業活動によって発生する温室効果ガスの排出抑制の取り組みを進めています。省エネルギー対策を実施するとともに、特に温室効果が高く、オゾン層破壊にも起因するフロン(HCFC-22:冷凍設備の冷媒)については、環境への流出を防止するため、ガス漏れ検査を定期的に実施しています。

温室効果ガスの排出抑制

温室効果ガスの中でも特に排出量が多い二酸化炭素について、その排出量削減を第2次中期環境目標の指標として掲げ、取り組みを進めています。

2004年度の二酸化炭素の排出量は生産量が減少したため総量で113,124tとなり、前年度比で4.7%減少しました。二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出量は、メタン(CH_4)が12,809kg、一酸化二窒素(N_2O)が646kgです。HFC、PFC、SF_6の排出はありません。

■ 二酸化炭素(CO_2)の排出量の推移



大気汚染物質の排出抑制

生産設備より排出される大気汚染物質については、生産工場ごとに法律で規制された規制値より厳しい自主基準値を設定し、排出抑制に努めています。

法律で規制されていない薫煙装置などの燃焼設備から排出される排気ガスの浄化対策も継続的に進めています。

ガス式消煙装置(東京工場)

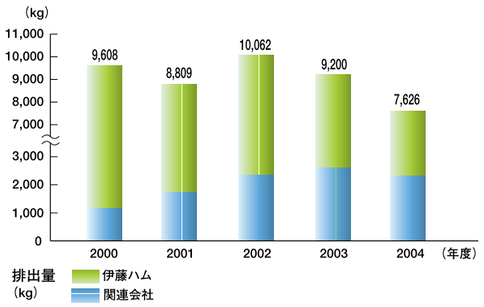
化学物質の排出抑制

冷凍設備において、PRTR法の対象物質であるフロン(HCFC-22)、エチレングリコールを使用しています。定期的にフロンガスの漏洩検査を実施することによって排出の抑制に努めています。2004年度のHCFC-22の排出量は7,626kgです。その他の化学物質では、消火設備のハロン1301があり、2004年度の排出はありません。

フロンガスの漏洩検査手順書類(六甲工場)

フロンガスの漏洩検査(六甲工場)

■ フロンガスの排出量の推移



TOPICS

悪臭物質の濃度測定を実施

悪臭に関しては測定義務はありませんが、主要生産工場では、自主的に悪臭防止法で定められた悪臭物質22種類のうち、有機溶剤を除く16種類について敷地境界線における濃度測定を実施しました。

(測定結果:16種類すべて規制値内)

悪臭物質濃度測定状況(小矢部工場)

環境活動Q&A

Q 廃棄物は、何にリサイクルされているの?

A リサイクル可能な廃棄物については、再生業者に委託し、ダンボールはトイレットペーパーや再生紙、動植物性残さは肥料や飼料、廃プラスチック類はプラスチック製杭など、汚泥は肥料やセメント原料などにリサイクルしています。

その他の環境負荷低減活動

オフィス関係

オフィスでは、文具・事務用紙・事務機器類のグリーン購入に取り組んでいます。またコピー用紙、OA用紙など紙類の使用量を削減するため、両面印刷、使用済み用紙の裏面再利用を励行するとともに各部門に「IT推進担当者」を配置して業務におけるペーパーレス化を推進しています。

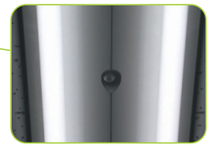
オフィスから発生する廃棄物は、可燃ごみ・紙・プラスチック・ペットボトルなど廃棄物の種類ごとに分別箱を設置し、リサイクルに支障をきたさないように分別保管の上、リサイクル業者などへ搬出しています。

本社事務所コピー室内
コピー用紙・裏紙収納棚

本社事務所内に設置しているリサイクルBOX

工場関係

主要生産工場の更衣室や休憩室などでは人感知式照明を導入しています。照明の消し忘れ防止ならびに更衣室の人感知式照明においてはロッカーの区分けごとにセンサーを取り付け、必要外の照明点灯を防止し、節電に取り組んでいます。

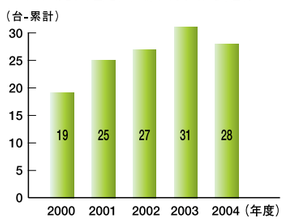

人感センサー付蛍光灯

営業関係

伊藤ハムグループでは、1998年度より天然ガス（CNG）自動車を導入しています。天然ガスは燃料供給スタンドに制約があり、使用地域が限られるため、今後はハイブリッド車の導入を進めていきます。また、アイドリングストップの励行や経済速度での運行など、二酸化炭素排出量の低減に努めています。

天然ガス（CNG）自動車

■ 天然ガス自動車導入実績の推移



※2004年度は導入が1台、廃車台数が4台のため2003年度より3台減少しています。

商品の環境負荷低減

商品に関する環境負荷低減として、有害物質の除去や包装材の減量化を進めています。

スライスパックの主力商品「さわやかパックシリーズ」では包装材に脱塩素系フィルムを使用しています。また、ウインナーの主力商品である「あらびきグルメウインナー」は包装材に水溶性インキを使用しています。水溶性インキは、溶剤に水とアルコールのみを使用しており、有機溶剤は一切使用していません。水溶性インキは、有害化学物質を排出しない環境にやさしいインキです。今後も環境負荷低減に配慮した商品開発に取り組みます。

包装材裏面

識別表示、材質表示

2001年4月から、従来のスチール缶やアルミ缶、ペットボトルに加え、プラスチック製容器包装及び紙製容器包装への識別表示についても義務化されています。プラスチック製容器包装については、リサイクル推進のため材質表示を併せて実施しています。

また、ダンボールについては識別表示の義務化は定められていませんが、自主運用で識別表示を進めています。

包装材裏面の識別表示と材質表示

プラ

紙

TOPICS

包装フィルムの紙管を有効利用

物流部門の拠点である六甲ロジスティクスセンターでは、包装フィルム使用後に残る紙管をラック内の商品の移動が楽にできるラックの床材として有効利用しています。

包装フィルムの紙管を有効利用したラック

環境活動 Q&A

Q 環境活動に対する意見や感想は、どのように伝えればいいの？

A 環境活動に対するご意見やご感想は、本報告書に差し込んであるアンケート用紙をご利用の上お寄せください。また、弊社ホームページ上の「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」内に環境専用の「ご意見・ご感想」フォームを設けていますので、そちらもご利用いただけます。

6 環境コミュニケーション

伊藤ハムグループでは、地球環境問題への取り組みや社会活動に関連する情報などを、さまざまな手段で幅広くお知らせしています。また、これらについてのご質問やご意見をいただく窓口を設けています。環境保全活動・社会活動をより効果的に進めるためには、ステークホルダーの皆様方との双方向のコミュニケーションが不可欠であると考えています。

情報開示

環境問題への取り組み姿勢や環境保全活動について、さまざまな機会を通じて社内外へ情報発信することは、企業が果たすべき責任であると考えています。環境報告書やホームページなどを通じて、積極的に情報を開示しています。

環境報告書の発行

環境保全への取り組みをご理解していただくために、2000年から環境報告書を発行しています。主な配布先は、お客様、企業、行政機関、学校、学生、従業員などです。

環境報告書は、来社されたお客様が自由にお持ち帰りいただけるようにしています。

弊社ホームページ上でも開示しています。

2001年版
（2001年7月発行）

2002年版
（2002年6月発行）

2003年版
（2003年6月発行）

2004年版
（2004年6月発行）

ホームページ

弊社ホームページ上に「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設し、幅広く環境保全活動について情報開示しています。環境報告書のほか、エコトピックスによる最新の環境活動の紹介や、環境報告書の請求もできるようになっています。また、お客様とのコミュニケーションを円滑に行うために、環境専用のメールアドレスを設けています。

ホームページ：
http://www.itoham.co.jp
専用メール：
eco@itoham.co.jp

商品展示会

毎年行っている商品展示会の際に、お得意先様や従業員と家族に弊社の環境保全活動、社会活動に対する理解を深めていただくために、環境・社会活動に関する取り組みを紹介しています。

商品展示会

環境パネル

環境フェアなどへの出展

弊社事業所が所在する自治体などで開催される環境フェアなどに出展し、環境保全活動や社会活動に関する情報を開示しています。

ワンワールド・フェスティバル

船橋市環境フェア

表彰

2004年6月、「全国農林水産関連企業環境対策協議会」より感謝状を受けました。これは、弊社が業界の環境対策協議会の理事会社として、多年にわたり組織の育成強化及び環境保全の推進活動に努め、農林水産関連業界の健全な発展に寄与したことの功績が認められたものです。これからも弊社はもちろんのこと、業界の環境経営の推進に、なお一層努めます。

感謝状

伊藤ハム株式会社殿

貴社は多年にわたり農林水産関連企業環境対策協議会の理事会社として組織の育成強化及び環境保全の推進活動に努められ農林水産関連業界の健全な発展に寄与されることの大なるものがありました

よって全国農林水産関連企業環境対策協議会創立十周年記念に当り感謝状を贈り謝意を表します

平成十六年六月三日

全国農林水産関連企業環境対策協議会
会長 寺田秀範

従業員教育・地域とのコミュニケーション

従業員一人ひとりの環境保全意識を高め、「地球にやさしい」企業風土を醸成するために、社内外の環境教育と社内啓発活動を実施しています。また、ボランティア活動を通じて環境のことを学ぶ、環境ボランティア体験学習を実施しています。

環境教育・啓発

●新入社員の環境教育
●環境マネジメントシステム教育
●工場における一般教育・専門教育
●社内報「躍動」に環境関連記事掲載
●職場に「環境情報掲示板」を設置
●社外の環境関連教育・セミナー　など

社内報

新入社員の環境教育

環境ボランティア体験学習

●課外授業「こうべ森の学校」

●クリーンアップ in 甲子園浜

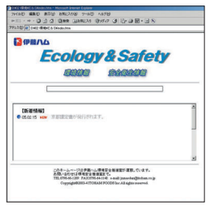
地域との交流

NPO法人「こども環境活動支援協会」（西宮市）の「環境学習支援プロジェクト2004」に参加し、「食はいのちの輝き～食べものをムダにしない工夫～」をテーマに兵庫県西宮市立平木小学校5年生46名のこどもたちに環境学習「出前授業」を行いました。

生徒から寄せられた礼状

環境情報の開示及び共有化

従業員の環境保全に対する意識・関心を高めるため、社内イントラネットを利用して環境に関する情報やデータを開示しています。



社内イントラネットの画面

エアメール

TOPICS

環境ボランティア体験の場として活用

「こうべ森の学校」をボランティア体験の場としても活用しています。2004年5月には、従業員と家族72名が参加し、クリーンハイキングと下草刈りや間伐作業を体験しました。

課外授業「こうべ森の学校」

パートナーシッププログラム

本社事務所が所在する兵庫県西宮市は、2003年12月に全国初の「環境学習都市宣言」を行いました。弊社では2003年度に引き続き、環境学習都市推進事業に参加しました。

パートナーシッププログラム感謝状

7 環境保全活動の沿革

年 月	弊社の主な取り組み内容
1965年	・廃水処理設備の導入開始
1973年	・都市ガス燃料ボイラーの導入開始
1991年 3月	・生産各工場に「環境管理室」を設置
1993年 3月	・生産事業本部に「環境安全担当」を設置
1994年 10月	・大型ボイラーから小型ボイラーに更新し環境負荷を低減
1998年 2月	・営業車輌に天然ガス（CNG）自動車の導入開始（業界初）
3月	・「環境担当役員」を選任、「環境安全推進室」を設置
	・全社的な活動推進組織を設置
	「環境委員会」－「生産部会」「商品物流部会」「オフィス部会」及び、生産部会の下部組織として「工場環境会議」を設置
1999年 2月	・「環境基本方針」を制定
10月	・東京工場が廃棄物計量システムを導入
2000年 2月	・西宮工場がISO14001を認証取得
3月	・オーストラリアのロックデールビーフ社がISO14001を認証取得
	・環境監査実施基準を策定し、全社的に環境監査を開始
4月	・西宮工場が廃棄物計量システムを導入
8月	・環境報告書を初めて発行
	・ホームページの「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設
9月	・東京工場がISO14001を認証取得
10月	・豊橋工場が廃棄物計量システムを導入
11月	・豊橋工場がISO14001を認証取得
2001年 1月	・ニュージーランドのファイブスタービーフ社がISO14001を認証取得
3月	・中期経営計画において環境活動3ヵ年計画を策定
	・グリーン購入基本方針制定
	・九州工場が廃棄物計量システムを導入
4月	・生産工場を対象に環境会計を導入
7月	・西宮工場で都市ガスによるコージェネシステムが稼働
10月	・六甲工場がISO14001を認証取得
2002年 2月	・九州工場がISO14001を認証取得
3月	・サンキョーミート(株)有明ミート工場・藤栄ファーム事業部・霧島ミート工場がISO14001を認証取得
	・環境基本方針の「環境行動指針」を一部改定
	・環境推進組織「生産部会」の下に「省エネ対策専門会議」を設置
8月	・九州工場、伊藤ハムデイリー（株）東北工場でコージェネシステムが稼働
9月	・コンプライアンス・ハンドブックを従業員に配布
	・豊橋工場でコージェネシステムが稼働
10月	・日本食糧新聞社の「環境資源協力賞」を受賞
11月	・社会貢献活動理念と活動方針を策定
2003年 3月	・北神加工センターがISO14001認証取得
5月	・船橋工場がISO14001認証取得（伊藤ハムのすべての生産工場で認証取得を完了）
7月	・（仮称）「こうべ市民演習林」（こうべ森の学校の前身）活動開始
9月	・「社会貢献推進期間」を設定し、全国の事業所で社会貢献活動の取り組みを開始
10月	・「クリーンアップin甲子園浜」（初めての自主企画）を実施
11月	・こうべ市民演習林の名称が「こうべ森の学校」と決定し発足式を実施
	本格的な森林保全活動がスタート
2004年 3月	・デイリー物流（株）がISO14001認証取得
	・北神加工センターが事業所閉鎖にともないISO14001認証を返納
5月	・伊藤ハムデイリー（株）東北工場がISO14001認証取得
6月	・全国農林水産関連企業環境対策協議会より感謝状の贈呈
10月	・平木小学校（西宮市）において環境学習「出前授業」を実施

環境報告

環境活動Q&A

Q 環境学習「出前授業」は、これからも続けるの？

A NPO法人「こども環境活動支援協会」（西宮市）とコミュニケーションを十分図った上で、今後も積極的に環境学習「出前授業」に参画していきます。

伊藤ハムグループ経営ビジョンより

コーポレートブランドを高め続ける企業を目指します

・限りなく顧客満足を高め続けます。
・株主を重視し、タイムリーなディスクローズを行います。
・コンプライアンスを徹底し、社員のやりがいを尊重します。
・地球環境への配慮と社会貢献活動を大切にします。

1 コンプライアンス

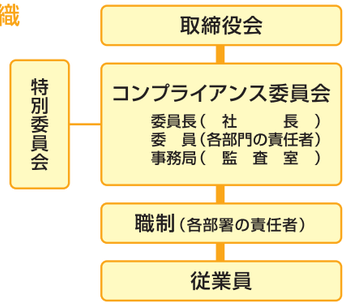
ステークホルダーの皆様方からの信頼を高め、健全で誠実な企業経営を行う上で守るべき考え方を「企業倫理規範」として策定しています。企業価値の向上のためには、企業倫理の高い公正な企業経営を徹底することが基本であると考え、コンプライアンス（企業倫理の遵守）の強化に取り組んでいます。

企業倫理規範

1. **公正な行動**
   伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。
2. **倫理観と遵法の精神**
   常に遵法に心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。
3. **関係法令の社内徹底**
   事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規程の制定と教育・アナウンスなどを通じて社内徹底を図ります。
4. **法令違反の早期是正と厳正対処**
   業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。

コンプライアンス・ハンドブック

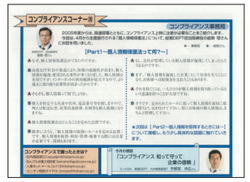
推進組織



情報の共有化

従業員のコンプライアンス・マインドの浸透を図り、より一層の啓発活動を進めるために社内イントラネットや社内報でコンプライアンスに関する情報を開示しています。

社内イントラネットの画面



社内報

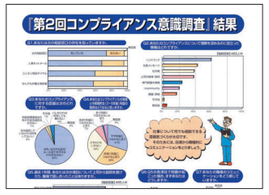
従業員教育

従業員のコンプライアンスに対する意識・関心を高めるため、新入社員研修、階層別研修や部門研修、所長会議や店長会議など、さまざまな場面でコンプライアンスについての教育を行っています。

講義風景

意識調査の実施

コンプライアンス・マインドの浸透状況を把握し、推進活動に役立てるため、従業員を対象にコンプライアンス意識調査を実施しています。

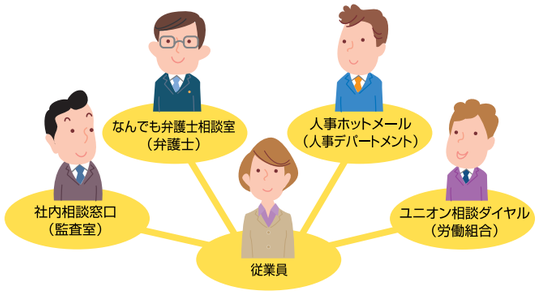


コンプライアンスデー

従業員のコンプライアンス・マインドのさらなる浸透と定着を図るために、毎年9月1日をコンプライアンスデーと定め、標語の募集、アンケートの実施やポスターの掲示を行っています。

相談窓口の設置

従業員がコンプライアンスに関することで困ったとき、悩んだときの相談先として次のような窓口を設置しています。



2 社会貢献活動

伊藤ハムの社会貢献活動は、社是「事業を通じて社会に奉仕する」の精神のもと、さまざまな分野で社会の発展に寄与できる取り組みを進めてまいりました。

近年、企業の社会的責任（CSR）に対する関心が高まっていますが、良き企業市民、良き地球市民として地球環境への配慮と地域社会とのより良い共生を目指して、さまざまな分野で社会貢献活動を展開しています。

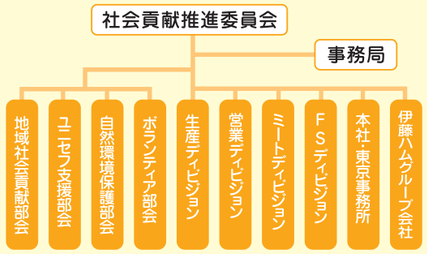
社会貢献活動理念

伊藤ハムグループの基本理念のもと、良き企業市民として、地球環境への配慮と社会との共生を大切にして、社会貢献活動を持続的に推進します。

活動方針

- 「食と健康」の分野で、世界の人々に役立つ活動を行います。
- 地域社会の良き一員として貢献し、信頼関係を築きます。
- ユニセフ活動及び国内外の被災地救済活動を支援します。
- 森林や河川などの自然環境保護活動を支援します。
- 従業員の意思と責任に基づく、ボランティア活動を支援します。

推進組織



社会貢献推進委員会事務局
〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号 伊藤ハム株式会社 総務デパートメント 総務室
TEL:0798-66-1231　FAX:0798-64-1140

ホームページでの情報開示

弊社が行う社会貢献活動全般について、ホームページ内のサイトにて情報を開示しています。是非一度ご覧いただき、ご意見・ご感想をいただければ幸いです。

ホームページ：http://www.itoham.co.jp

大切な自然を保護する活動

地球環境を保全し、豊かな自然を未来の子どもたちに残すために、事業所内における環境負荷低減活動だけでなく、森林や水辺の環境保護など、大切な自然環境を保護する活動に取り組んでいます。

これらのボランティア活動には、従業員及び家族が積極的に参加しています。

森林保全活動

●こうべ森の学校

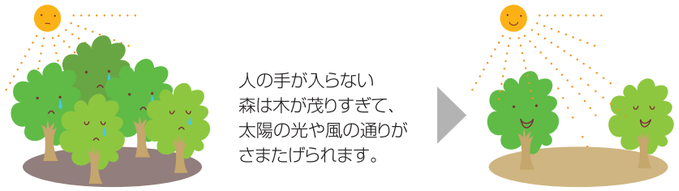
2002年に緑化100周年を迎えた六甲山地で、これからの100年の森林保全と育成を目指して神戸市が進める「六甲山これからの百年の森づくり」を市民の手で行う活動が、この「こうべ森の学校」です。

2003年7月に「（仮称）こうべ市民演習林」としてスタートし、同年11月に名称が「こうべ森の学校」と決定し、継続して活動を行っています。

この活動は、市民・行政・企業が協働で森林保全活動を推進するプログラムで、弊社は活動資金の提供や、従業員ボランティアを派遣しています。

◇活　動　日：奇数月は第2土曜日、偶数月は第3日曜日、各月最終木曜日
◇場　　所：六甲山地再度山（神戸市）周辺の森林
◇活動内容：森の手入れ（間伐、下草刈りなど）、間伐材を利用したログハウスづくり、木工細工、苗圃づくり　など
◇参加人数：2004年度は12回の活動が行われ、延べ806名の方が参加されました。

間伐によって、森は元気を取り戻します



人の手が入らない森は木が茂りすぎて、太陽の光や風の通りがさまたげられます。

そこで細い木などを適度に伐採し、木々の間に光や風を呼び込むのが間伐です。

●活動の様子

社外の方のご意見

兵庫の津が神戸港として開かれた明治期の六甲山は、草木の少ない荒れ果てた山地であったと記録されています。名水神戸ウォーターの水源として知られる布引貯水池の水源林を整備するために明治35年11月に六甲山の緑化に着手されてから1世紀が経過しました。しかし、長い年月を必要とする森づくりとしては未だ途半ばです。

六甲山緑化100周年を機に、これからの100年の森づくりを担う人材を育てながら、神戸の都市林としてふさわしい森づくりの一端を担う市民活動「こうべ森の学校」が伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて発足して2年近くが経過しました。活動の場を提供する神戸市との三者協働です。参加市民の熱い思いが伊藤ハムさんの支援に支えられ、神戸市民にとって不可欠の環境財「六甲山のみどり」を保全し、先人の偉業を次世代に引継ぐ夢のある市民活動が順調に進展することを期待しています。

神戸市建設局公園砂防部
森林整備事務所長
高橋　敬三

社会貢献活動 Q&A

Q 「こうべ森の学校」に参加するには、どうしたらいいの？

A 「こうべ森の学校」の活動は、六甲山地再度公園内（神戸市）の演習林で行っています。活動日に会場にお越しいただき、簡単な手続きをするだけで参加できます。会員登録していただいた方には、定期的に活動の案内が郵送されます。

クリーンアップ活動

水は食品メーカーにとって生産活動に欠かすことのできない貴重な資源です。

水辺の環境を保全し、豊かな自然環境を残していくために、各地の海岸、河川、湖沼のクリーンアップ活動を行っています。

実施年月	名　　称	場　所	弊社参加者数	活動の特徴など
2004年4月	ビーチクリーンアップinSUMA（春）	神戸市	33人	毎年春には日本全国で、秋には世界中で一斉に実施される、環境保護キャンペーン。2001年より協賛、参加。
2004年9月	伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン	宮城県	62人	水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約である「ラムサール条約」の登録湿地。2004年より参加。
2004年9月	梅田川ふれあいクリーン作戦	豊橋市	10人	豊橋市が主催する市民参加型のクリーンキャンペーン。豊橋工場近隣を流域とする河川です。2004年より参加。
2004年9月	ビーチクリーンアップinSUMA（秋）	神戸市	42人	毎年春には日本全国で、秋には世界中で一斉に実施される、環境保護キャンペーン。2001年より協賛、参加。
2004年10月	クリーンアップ in 甲子園浜	西宮市	48人	阪神間で数少ない自然の砂浜と干潟が残り、国設鳥獣保護区に指定。弊社自主プログラムで実施。活動運営は西宮市及びNPO法人「こども環境活動支援協会」（西宮市）と連携。
2004年10月	ふなばし三番瀬クリーンアップ2004	船橋市	81人	東京湾に残る干潟「三番瀬」に対する理解と関心を深め三番瀬の保全を図る目的で行われるクリーンアップキャンペーン。2003年より参加。
2005年3月	伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン	宮城県	46人	水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約である「ラムサール条約」の登録湿地。2004年より参加。

※上記の他に、全国各地で事業所周辺の清掃美化活動を行っています。

●ビーチクリーンアップ in SUMA

●梅田川ふれあいクリーン作戦

●伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン

●クリーンアップ in 甲子園浜

●ふなばし三番瀬クリーンアップ2004

社外の方のご意見

企業ができる社会貢献活動の一つに、"地域への還元"というものがあります。企業も地域の一員として貢献していこうというものです。2年前から伊藤ハムさんの社会貢献活動でご一緒させていただいておりますが、まさにこの"地域への還元"という言葉がふさわしい感じがいたします。

従業員の皆様が一丸となって取り組まれる甲子園浜の清掃活動や、当協会で実施する企業・学校・NPOの協働による子どもたちへの環境学習支援プロジェクトでは、ハムの生産工程と食材の有効活用を通して"食べ物の大切さ"を地域の子どもたちに分かりやすく伝えていただいております。

これらの取り組みは、地域に根ざしたものであるとともに、地域のさまざまな主体のパートナーシップにより継続的に進められていることに大きな意味があります。今後も地域のさまざまな主体との連携・協働により、持続可能な地域社会の実現を目指して活躍されることを期待しております。

こども環境活動支援協会
代表理事
千頭　聡

支援活動など

ユニセフ支援活動

2004年11月1日～2005年1月31日の3ヵ月間、伊藤ハムグループの約270ヵ所の事業所でユニセフ募金活動に取り組みました。ここで集まった募金は、マッチングギフト（会社拠出分）と併せて、1,079,438円を財団法人ユニセフ協会を通じて、世界中の子どもたちの幸福を願って寄付しました。また、12月には東京・関西地区で街頭募金「ハンド・イン・ハンド」に参加しました。

東京地区

関西地区

ユニセフ協会より感謝状

被災地救済支援活動

国内外で発生する自然災害で、被害に遭った人々の生活援助を目的とし、国・地方公共団体・その他の団体に対して、義援金や弊社の製品を救援物資として贈る活動を行っています。

【2004年度の支援活動】

- 「平成16年7月新潟・福島豪雨」の被災地新潟県3市1町（2004年7月）
- 「平成16年7月福井豪雨」の被災地福井県2市3町（2004年7月）
- 台風10号の被災地徳島県1町1村（2004年7月）
- 台風15号の被災地愛媛県1市・高知県1村（2004年8月）
- 台風16号の被災地香川県6市7町・岡山県5市4町・愛媛県1市・宮崎県1町1村（2004年8月）
- 台風18号の被災地広島県1市1町（2004年9月）
- 台風21号及び秋雨前線にともなう大雨による被災地三重県2市2町1村・愛媛県3市1町（2004年9月）
- 台風22号の被災地静岡県伊東市（2004年10月）
- 台風23号の被災地兵庫県5市13町・徳島県4市・香川県4市4町・宮崎県北川町・京都府4市3町・岐阜県高山市（2004年10月）
- 「平成16年新潟県中越地震」の被災地新潟県54市町村（2004年10月）
- 「スマトラ沖大地震」の被災地（2004年12月）
- 「九州西方沖地震」の被災地福岡県福岡市（2005年3月）

義援金・救援物資を手渡す従業員代表

ボランティア支援活動

●社会貢献推進期間

2003年度より、毎年9月1日～10月31日の2ヵ月間を「社会貢献推進期間」と定め、従業員の意識向上と積極的な社会参加を目的とした活動を各地区で実施しています。2004年度からは、啓発ポスターのキャッチフレーズを従業員から募集するなど、社会貢献活動の更なる拡大と定着を図っています。

2004年度キャッチフレーズ

「もっとやさしい自分に出会いたいから」

●ボランティアセミナー開催

2004年10月、従業員のボランティア意識の向上と参加を促すことを目的に、社外から講師を招き、「ボランティア入門講座」を開催しました。初心者でも分かりやすい内容で、参加者からは「ボランティアに対するイメージが変わり、身近なものになった」との声があがっていました。

【2004年度の実施事業所】

- 本社事務所・西宮工場
- 目黒事務所
- 豊橋工場
- 東北工場
- 九州工場

社会福祉法人大阪ボランティア協会事務局長　早瀬　昇氏

●表彰制度

顕著な社会貢献活動を、継続して実施している従業員を表彰する制度を設けています。

2004年には、社会福祉活動を永年継続している営業ディビジョン関西MKデパートメント・登日亜紀子（とび）さんなど4名を

表彰風景

表彰状

●ボランティア休暇制度

環境保全活動、災害時の被災地救済活動や社会福祉活動などのボランティア活動に参加する場合、積み立て保存年休の範囲内で1年間に10日間の休暇を取得できるボランティア休暇制度を導入しています。

社会貢献活動 Q&A

Q 社会貢献推進期間のキャッチフレーズは、どうやって決めるの？

A 社内イントラネットなどを利用して、従業員からキャッチフレーズを募集し、社会貢献推進委員会で十分協議した上で決定しています。

安全衛生と健康づくり

従業員の安全と健康を守り、安心して働ける安全な職場環境を形成するために、安全衛生に関する方針を定め、さまざまな活動に取り組んでいます。

安全衛生管理基本方針（平成17年度）

1. 安全衛生関係諸法令を遵守し、安全衛生管理レベルの向上を図ること。
2. 管理監督者は、安全衛生の基本を職場に徹底すること。
3. 従業員は、安全衛生基準・ルールを遵守すること。
4. 実作業に則した安全衛生教育・訓練を実施すること。
5. 「切れ」「転倒」「はさまれ・巻き込まれ」「落下」「転落」災害の発生を抑制すること。
6. 構内協力会社と連携、情報交換を十分に行うこと。
7. 心身の健康づくりを推進すること。

安全衛生監査

労働災害の発生を防止し、危険のない職場の実現を目指し、本社環境安全推進室と工場の安全管理者などで構成する監査チームが、年度の安全衛生監査計画に沿って主要事業所の監査を行い、継続的改善に努めています。2004年度は19事業所の監査を行い、労働安全衛生法などの遵法状況の確認と危険箇所の改善を行いました。

プラント監査

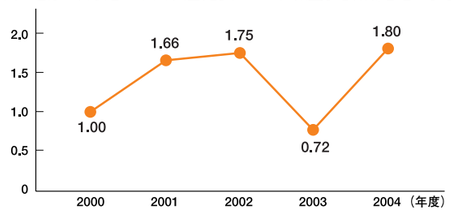
安全衛生教育

工場では、主任昇格時に監督者安全衛生教育を実施し、安全の確保と安全衛生意識の向上に取り組んでいます。

監督者の安全衛生教育

千人率の推移（伊藤ハム6工場）＜休業1日以上災害＞

※千人率とは…労働者1,000人当たり、1年間に発生する死傷者を示すもの。



＜参考＞2003年食料品製造業の千人率:6.73

心のほっとライン

2004年6月、外部専門機関と提携し、従業員のメンタルヘルスに対応する「心のほっとライン」をスタートしました。

〈主な内容〉
①「伊藤ハムグループ　心のほっとライン」という無料の電話相談を開設し、問題解決に向けて専門的支援を行う。
②ストレスチェックアンケートを実施し、従業員のストレスについて自身で客観的に理解したり、仕事のストレス判定による職場診断を行う。
③管理職などへの研修を実施。

健康情報の提供

心身が健康だからこそ、お客様に信頼していただける仕事ができます。伊藤ハム健康保険組合は、健康診断、人間ドッグ、ウォーキング大会やメンタルヘルスなど、健康づくりに関する情報を、社内イントラネットを利用して従業員に向けて発信しています。

その他の社会性報告

「均等推進企業表彰兵庫労働局長優良賞」受賞

2004年6月、弊社は「均等推進企業表彰兵庫労働局長優良賞」を受賞しました。今回の受賞は、女性活用に関するここ数年の弊社の取り組み実績（女性活躍推進委員会の発足、アクションプランの策定、女性を対象とした研修の実施など）を評価されたものです。今回の受賞を糧に、今後さらなる取り組みを進めていきます。

トレーサビリティー

おいしい牛肉を安心してお客様にご提供できるよう、生産・飼育・加工情報を一貫して管理するシステム、伊藤ハム推奨銘柄牛「安全・安心システム」トレーサビリティーシステムを導入しています。
詳細は弊社ホームページをご覧ください。
http://www.itoham.co.jp

「もっとおいしくコミュニティ」がスタート

「もっとおいしくコミュニティ」とは、伊藤ハム商品のコンセプトである「おいしさがブランド」を求めて、味に興味のある主婦の方を対象に半年契約でモニターを行い、弊社商品の味をさらにおいしくするために、さまざまな角度からご意見を伺い、お客様のニーズを商品に反映していく試みで2004年11月よりスタートし、今後も継続して実施してまいります。

お客様の代表であるモニターのご意見で"おいしく"なったと認められた商品のパッケージには右記マークが入ります。

もっとおいしくコミュニティ

安全衛生活動 Q&A

Q 監督者安全衛生教育の講師は、どのような人なの？

A 安全衛生教育センターでRST講座を受講・修了した者（RSTトレーナー）が監督者安全衛生教育を行っています。【RST＝RODOSHO SAFETY AND HEALTH EDUCATION TRAINERの頭文字をとったもの】

みんなの声

九州工場では「社会貢献活動」の一環として、毎年春と秋に工場周辺の河川及び道路を中心に清掃活動を実施しておりますが、この活動も3年目を迎え、年々参加者も増えております。特に最近では子どもさんと一緒に参加される方もおられ、自然環境の大切さを知ってもらうには非常に良い機会だと思っております。同時に私自身、日々の活動として毎朝工場周辺の清掃を行っておりますが、行き交う人との挨拶は私の楽しみになっている今日この頃です。
これからも、企業市民として地球環境への配慮と地域社会との共生を大切にして活動していきたいと思います。

九州工場
お客様サービス担当
松雪　修一

水泳以外で新たな楽しみを見つけたいと思っていたところボランティアの掲示を見ました。この世界は水泳の面白さとはまったく対照的な面白さがありました。それは"適当"に楽しめるということです。これは大変新鮮な楽しさでした。また、大自然の中で活動するという経験は味わったことのない気持ち良さを教えてくれました。これからも楽しんでいきたいと思っています。

西宮工場
Gバックグループ
小寺　しのぶ

2004年9月25日に豊橋市主催の梅田川のクリーン活動に初めて参加して、地域住民や地元企業などの多くの方々と一緒にごみ拾いを行いました。ごみの多くはペットボトルや空缶でしたが、中にはタイヤや家具などの放置もあり、530（ごみゼロ）活動発祥の地である豊橋市にもまだまだ心ない人がいることを実感しました。また、川の水は思ったより透明度があり魚が泳ぐ姿も見られ、梅田川の水質もここ数年でかなり改善されているとのことでした。
梅田川は豊橋工場の東側を流れる身近な川でありながら今まであまり意識していませんでしたが、今回のクリーン活動に参加したことで、改めて川とふれあうことができました。

豊橋工場
資材室
澤田　博志

2004年の秋に、船橋市の三番瀬にて海岸の清掃ボランティアに参加しました。前回も参加したのですが、今回は天候も良く、絶好の秋日和となり、弊社からも数多くの親子連れが参加してのんびりと散策を兼ねた清掃活動を行いました。
船橋に住むようになって約10年になるのですが、東京からも近い船橋という立地にありながら、アサリもとれるようなきれいな海辺の近くに住んでいることは、私の自慢の一つとなりました。が、この海がいつまでもきれいであるためにも、みんなで綺麗にしていく心がけが必要だということも、目の前のごみの山（ほとんどが遊びに来ては捨てていったと思われるような煙草、花火の残骸、お弁当・・・）を見て痛感せずにはいられませんでした。この自然を守るためにも、微力ではありますが、またお手伝いできればと思っています。

船橋工場
品質管理室
大木　淑子

先日、三度目のビーチクリーンアップinSUMAに参加させていただきました。弊社だけでなく、たくさんの参加企業の皆さんと一緒に須磨海岸の清掃ボランティアを行いましたが、子ども2人はごみ拾いを楽しんでやっていました。タバコの吸殻や空缶のプルタブなどかなりのごみを拾い、満足。今後も、できる限り参加したいと考えています。でも、ごみを出さない、ポイ捨てをしないことが大切だということを、家族皆であらためて考えさせられました。

六甲工場
単味品製造グループ
竹松　敏夫

社会貢献活動…いかにもと言わんばかりの堅苦しい言葉ですが、私はレクリエーション感覚で気楽に参加しています。子どもたちが親離れしていき、休日の自由な時間が増えた分を、カミさんと2人で楽しんでいると言ったほうがいいかもしれません。
森の学校へは森林浴を兼ねて、海岸清掃へは海辺の散歩を楽しみながらといった具合に、負担に感じないよう、無理をせずに参加することにしています。
今後の活動の幅を広げると言う意味では、定年退職されたOBの方にも案内して、同窓会気分で気軽に参加していただくことなども考えられると思います。

営業ディビジョン
業務デパートメント
鴫山　哲朗

生まれて初めて街頭募金活動なるものをやってみて、「やってよかったー。」というのが正直な感想です。当日は、大変寒いうえに風も強くて、体力的にきつかったですが、終わった時の満足感に、月並みですがすべて救われた感じでした。今回、東京地区の活動には初参加ということもあって、社内の認知度が低く3名の参加でしたが、次回からは多くの方に参加してもらえるようにしたいと思います。

総務デパートメント
東京総務室
栗山　彰男

私は耳が（耳と口が不自由）聞こえません。私自身が自立するため、社会貢献活動には頑張って参加しています。具体的には、事業所周辺の清掃2回、伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンに2回参加しました。毎回参加して思うのは、なかなかポイ捨てが無くならないこと。今後も続けて参加したいと思っています。

伊藤ハムデイリー（株）
東北工場パックグループ
浅野　敏子

伊藤ハムグループの環境データ

■ エネルギー等使用量の推移

		合計				
		2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力	総量(千kwh)	157,081	154,470	161,990	163,853	154,522
	原単位(kwh/t)	1,188	1,146	1,087	1,116	1,183
燃料※1	総量(kl)	19,599	20,228	26,385	30,820	29,470
	原単位(l/t)	148	150	177	210	226
総エネルギー※2	総量(kl)	61,225	61,801	64,445	64,845	61,256
	原単位(l/t)	463	459	432	442	469
用水	総量(千m^3)	4,588	4,478	4,711	4,688	4,614
	原単位(m^3/t)	35	33	32	32	35

		伊藤ハム				
		2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力	総量(千kwh)	133,061	131,160	137,065	138,204	129,448
	原単位(kwh/t)	1,152	1,113	1,056	1,085	1,173
燃料※1	総量(kl)	15,968	16,631	20,728	23,671	22,319
	原単位(l/t)	138	141	160	186	202
総エネルギー※2	総量(kl)	51,230	52,027	54,155	54,569	50,923
	原単位(l/t)	444	441	417	428	462
用水	総量(千m^3)	3,823	3,761	3,918	3,878	3,803
	原単位(m^3/t)	33	32	30	30	34

		関連会社				
		2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力	総量(千kwh)	24,020	23,310	24,925	25,650	25,073
	原単位(kwh/t)	1,422	1,382	1,298	1,324	1,233
燃料※1	総量(kl)	3,630	3,596	5,658	7,149	7,151
	原単位(l/t)	215	213	295	369	352
総エネルギー※2	総量(kl)	9,996	9,773	10,290	10,276	10,333
	原単位(l/t)	592	579	536	531	508
用水	総量(千m^3)	765	717	793	810	811
	原単位(m^3/t)	45	42	41	42	40

※1:原油換算　※2:総エネルギー:原油換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

■ 二酸化炭素(CO_2)の排出量の推移

(単位:t-CO_2)

		合計				
		2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力		56,078	53,369	48,683	43,006	40,068
燃料	都市ガス	18,667	20,207	22,062	26,053	23,960
	LPガス	9,378	9,311	9,757	4,481	4,010
	重油	14,323	13,817	27,374	39,715	39,734
	灯油	65	42	35	40	43
	蒸気(購入分)	4,704	5,083	4,992	5,456	5,309
合計		103,215	101,829	112,903	118,751	113,124
生産原単位(kg-CO_2/t)		780	756	757	809	866

		伊藤ハム				
		2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力		47,503	45,048	42,443	38,794	35,782
燃料	都市ガス	18,667	20,207	22,062	26,053	23,960
	LPガス	8,061	7,913	8,177	2,856	2,309
	重油	5,983	5,640	13,754	22,062	22,169
	灯油	6	9	6	6	5
	蒸気(購入分)	4,704	5,083	4,992	5,456	5,309
合計		84,924	83,900	91,434	95,227	89,534
生産原単位(kg-CO_2/t)		735	712	704	748	812

		関連会社				
		2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力		8,575	8,322	6,240	4,213	4,286
燃料	都市ガス	—	—	—	—	—
	LPガス	1,317	1,398	1,580	1,625	1,701
	重油	8,340	8,177	13,620	17,653	17,564
	灯油	59	33	30	34	38
	蒸気(購入分)	—	—	—	—	—
合計		18,291	17,930	21,470	23,525	23,590
生産原単位(kg-CO_2/t)		1,083	1,063	1,118	1,215	1,160

※エネルギーの二酸化炭素(CO_2)排出係数は環境省の『温室効果ガス排出量算定方法に関する検討結果(平成12年9月)』を採用しました。

■ 代替フロン(HCFC−22)排出量の推移

(単位:kg)

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
HCFC−22	9,608	8,809	10,062	9,200	7,626

■ 廃棄物の排出量とリサイクル率の推移

(単位:t)

	合計									
	2000年度		2001年度		2002年度		2003年度		2004年度	
	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率
汚泥	12,886	80.0%	12,335	82.1%	13,478	91.3%	13,493	99.9%	12,133	100.0%
廃プラスチック	3,168	32.5%	3,082	41.4%	3,429	49.1%	2,702	79.9%	2,789	91.6%
動植物性残さ	3,364	47.6%	3,470	49.4%	3,698	50.8%	3,122	83.1%	2,993	95.8%
金属くず	527	94.4%	485	96.2%	494	95.7%	452	99.7%	500	99.9%
ガラス類	29	28.2%	31	33.9%	32	27.8%	29	31.2%	9	53.9%
古紙類(OA用紙など)	246	52.3%	257	52.9%	276	60.5%	645	98.6%	221	98.3%
廃ダンボール類	3,809	100.0%	3,726	100.0%	4,250	100.0%	4,074	97.7%	3,981	99.9%
廃油	888	99.8%	1,014	99.9%	1,122	100.0%	1,240	99.9%	1,015	100.0%
チップくず	161	12.4%	165	23.4%	262	53.1%	271	65.2%	270	67.6%
その他(一般ごみ)	—	—	—	—	747	0.0%	1,699	2.8%	1,656	0.0%
合計	25,078	72.3%	24,565	75.3%	27,788	79.3%	27,727	89.4%	25,565	91.7%

	伊藤ハム									
	2000年度		2001年度		2002年度		2003年度		2004年度	
	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率
汚泥	10,986	93.8%	10,482	96.5%	11,259	96.9%	11,158	99.9%	9,862	100.0%
廃プラスチック	2,570	40.1%	2,572	47.8%	2,934	51.3%	2,190	84.7%	2,260	91.8%
動植物性残さ	2,743	42.9%	2,823	41.1%	2,909	62.4%	2,297	89.4%	2,152	95.4%
金属くず	454	93.9%	404	95.5%	403	94.8%	378	99.7%	441	100.0%
ガラス類	28	29.0%	30	34.2%	32	27.2%	29	31.0%	9	52.8%
古紙類(OA用紙など)	360	34.5%	216	58.4%	232	62.1%	599	99.5%	194	100.0%
廃ダンボール類	3,253	100.0%	3,308	100.0%	3,755	100.0%	3,453	97.4%	3,381	100.0%
廃油	414	99.6%	462	99.9%	547	100.0%	551	99.8%	379	100.0%
チップくず	122	17.0%	132	29.4%	231	57.8%	237	74.6%	237	71.1%
その他(一般ごみ)	—	—	—	—	733	0.0%	1,532	1.3%	1,377	0.0%
合計	20,930	80.1%	20,428	82.4%	23,035	86.1%	22,424	89.9%	20,290	91.4%

	関連会社									
	2000年度		2001年度		2002年度		2003年度		2004年度	
	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率	排出量	リサイクル率
汚泥	1,900	0.0%	1,853	0.7%	2,219	100.0%	2,335	99.9%	2,271	100.0%
廃プラスチック	598	0.0%	510	9.2%	495	91.8%	512	59.4%	529	90.9%
動植物性残さ	620	68.3%	647	85.5%	790	95.4%	826	65.6%	840	98.4%
金属くず	74	98.1%	81	99.9%	91	100.0%	75	99.8%	59	99.3%
ガラス類	0.4	0.0%	0.3	6.1%	1	52.8%	0.2	57.6%	0.3	85.6%
古紙類(OA用紙など)	37	12.7%	41	23.5%	44	100.0%	46	86.3%	27	86.0%
廃ダンボール類	404	100.0%	419	100.0%	495	100.0%	619	100.0%	600	99.4%
廃油	475	100.0%	552	100.0%	575	100.0%	689	100.0%	636	100.0%
チップくず	39	0.0%	34	0.0%	30	71.1%	34	0.0%	34	42.8%
その他(一般ごみ)	—	—	—	—	14	0.0%	167	17.0%	280	0.0%
合計	4,148	33.2%	4,137	40.5%	4,754	91.4%	5,303	87.3%	5,276	93.0%

■ 伊藤ハムグループのISO14001認証取得事業所

サイト名		認証機関	登録年月
伊藤ハム	西宮工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年 2月
	東京工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年 9月
	豊橋工場	日本環境認証機構(JACO)	2000年11月
	六甲工場	日本環境認証機構(JACO)	2001年10月
	九州工場	日本環境認証機構(JACO)	2002年 2月
	船橋工場	日本環境認証機構(JACO)	2003年 5月
伊藤ハムデイリー	東北工場	日本環境認証機構(JACO)	2004年 5月
サンキョーミート	有明ミート工場 ファーム事業ユニット 霧島ミート工場	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)	2002年 3月
デイリー物流	本社・仙台物流センター	財団法人日本品質保証機構(JQA)	2004年 3月
ロックデールビーフ社(オーストラリア)		NCS International Pty Ltd	2000年 3月
ファイブスタービーフ社(ニュージーランド)		SGS International Certification Services Pty Ltd	2001年 1月

※デイリー物流株式会社は、2005年4月1日付で伊藤ハム物流株式会社に名称変更しました。　※北神加工センターは、事業所閉鎖にともない2004年3月に認証登録を返納しました。

■ グリーン購入の推移

対象品目			グリーン購入の割合(%)				
			2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
事務用品	文具類	筆記具、ファイルなど	—	61.3	80.5	55.1	95.9
	紙類	コピー用紙、コンピューター用紙など	—	77.2	62.2	62.9	73.9
事務機器	OA機器類	パソコン、コピー機、ファクシミリなど	—	75.4	53.8	100.0	100.0
	オフィス家具類	事務用机、椅子、OAテーブルなど	—	55.6	71.4	100.0	79.2
その他	照明器具類	ランプ、蛍光灯器具など	—	49.3	49.4	55.0	62.6
	制服類	作業着など	—	—	4.0	97.2	98.5

※2000年度にグリーン購入基本方針を制定し、2001年度よりデータ集計を開始しました。(なお、制服類については2002年度より実施しました)

※BOD、SSの規制値は最大値を表しています。ただし（　）の数値は平均値です。

九州工場

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力(kwh/t)	1,259	1,232	1,148	1,200	1,303
燃料(l/t)	227	224	305	392	432
総エネルギー(l/t)	560	550	502	509	555
用水(m^3/t)	53	53	44	41	48
CO_2(kg-CO_2/t)	976	959	1,021	1,075	1,170

所在地
〒841-0202
佐賀県三養基郡基山町長野970-1

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
排出量（t）	3,487	3,614	3,936	3,609	2,927
リサイクル率（%）	73.4	90.0	91.4	93.4	93.8

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.5	8.0	7.7	—
BOD(mg/L)	30	25	6.9	—	3.0
SS(mg/L)	25	20	13.0	—	7.0

4.大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm^3/h）	A（2基）	2.69	0.0021	—	—
	B（6基）	2.0	1.0	0.05	0.044
NOx（ppm）	A（2基）	150	140	79	78
	B（6基）	950	750	750	705
ばいじん（g/Nm^3）	A（2基）	0.1	0.006	0.001	0.001
	B（6基）	0.4	0.05	0.014	0.012

昨今の生産工場を取り巻く環境情勢は、産業廃棄物税が創設されるなど、廃棄物に対する規制が年々厳しくなり、環境管理の業務が一段と重要視されてきました。そのような情勢の中、九州工場は「ISO14001認証取得」から3年が経過し、特に「廃棄物の削減」に関する環境改善活動は順調に推移しています。今後は、「廃棄物の削減」から「廃棄物の有効利用の推進」にチャレンジして『ゼロ・エミッション』を目指し、全従業員が一丸となってさらなる発展につなげていきたいと思います。

九州工場
環境管理室・室長
横山　重夫

主な生産品目

壱番亭ハンバーグ　壱番亭とんかつ　備長炭焼ハンバーグ

西宮工場

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力(kwh/t)	1,271	1,250	1,156	1,078	1,018
燃料(l/t)	150	187	192	187	182
総エネルギー(l/t)	487	467	432	414	396
用水(m^3/t)	29	30	28	27	27
CO_2(kg-CO_2/t)	725	715	670	643	617

所在地
〒663-8586
兵庫県西宮市高畑町4-27

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
排出量（t）	5,298	5,006	5,200	5,257	5,043
リサイクル率（%）	79.6	71.4	75.0	83.3	85.3

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.5～8.5	7.6	6.5	—
BOD(mg/L)	30(20)	15	7.7	—	3.6
SS(mg/L)	30(20)	20	5.2	—	2.6

4.大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（t/y）	A&B（14基）	1.3	—	—	—
NOx（ppm）	A（12基）	60	45	42	33
	B（2基）	150	120	33	33
ばいじん（g/Nm^3）	A（12基）	0.05	0.02	0.004	0.002
	B（2基）	0.05	0.02	0.002	0.002

西宮工場では兵庫県、西宮市と環境保全協定を結び、国の基準より厳しい協定値により、環境保全の推進、環境負荷の低減を図っています。省エネ対策、節水、廃棄物のリサイクル等について、西宮工場全員が目的・目標達成目指し取り組んでいます。2004年度は省エネ対策として第4工場空調機交換、冷凍機制御回路見直しなどを実施し、154,200kwhの省エネ効果が得られました。今後も「地球にやさしく、環境に配慮する工場」をスローガンに西宮工場全員が協力し、環境保全活動に取り組んでいます。

西宮工場
環境管理室・室長
戎田　茂

主な生産品目

アルトバイエルン　朝のフレッシュロースハム　ロイヤルボールウインナー

六甲工場

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力(kwh/t)	1,665	1,669	1,634	1,597	1,653
燃料(l/t)	141	144	144	145	141
総エネルギー(l/t)	582	586	577	568	579
用水(m^3/t)	25	26	26	26	27
CO_2(kg-CO_2/t)	849	856	844	832	846

所在地
〒658-0033
兵庫県神戸市東灘区向洋町西5-7

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
排出量（t）	665	1,138	853	693	646
リサイクル率（%）	78.8	48.4	61.4	85.1	86.4

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.6	7.1	—
BOD(mg/L)	200	180	16.0	—	7.9
SS(mg/L)	100	90	7.0	—	4.6

4.大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（K値）	A（4基）	1.17	—	—	—
NOx（ppm）	A（4基）	150	40	18	18
ばいじん（g/Nm^3）	A（4基）	0.1	0.02	0.002	0.002

六甲工場はISO14001認証取得から今年で4年目を迎えました。2004年9月に更新審査を受け、10月に「合格」の通知をいただきました。これもひとえに、協力会社を含めた全従業員が一丸となって目標達成に向けて取り組んだ成果です。また、六甲工場東側地区は高層マンションや一戸建ての住宅が建ち並んでおり、地域の皆さんとのコミュニケーションを図っていかなければならないと考えております。これからも「地球にやさしく環境に配慮する工場」を目標に環境活動を進めていきます。

六甲工場
環境管理担当
宮崎　拓男

主な生産品目

醇上級ももハム　チーズイン　ムースポール

豊橋工場

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力(kwh/t)	1,449	1,415	1,356	1,340	1,345
燃料(l/t)	168	159	238	341	348
総エネルギー(l/t)	553	534	500	481	484
用水(m^3/t)	48	47	45	47	48
CO_2(kg-CO_2/t)	975	939	1,002	1,120	1,133

所在地
〒441-8686
愛知県豊橋市藤並町藤並73

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
排出量（t）	2,408	2,479	2,883	3,056	2,941
リサイクル率（%）	73.0	76.4	80.2	92.4	94.6

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.5～8.5	7.8	7.6	—
BOD(mg/L)	120(100)	30	6.7	—	4.8
SS(mg/L)	160(120)	30	12.0	—	5.6

4.大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm^3/h）	A（7基）	2.2	1	0.041	0.038
	B（7基）	1.01	—	0.034	0.032
NOx（ppm）	A（7基）	—	180	92	84
	B（7基）	400	—	78	71
ばいじん（g/Nm^3）	A（7基）	—	0.1	0.002	0.002
	B（7基）	0.1	—	0.002	0.002

豊橋工場では、廃棄物総排出量の約60%を占める排水汚泥の削減を目的とした廃水処理施設の増強改修、電力使用量の約45%を占める冷凍機の高効率化を目的とした設備更新など、環境負荷低減に向けた改善活動に取り組んでいます。また、ゼロ・エミッション工場を目指すべく、ごみの分別数を17種類に細分化し、リサイクル用途への対応を図ってきました。さらに、昨年度より、ハムくずをリサイクル飼料として再資源化するため、地元企業とのタイアップによるテストに着手しています。

豊橋工場
環境管理室・室長
柿本　祥一

主な生産品目

朝のフレッシュベーコン　ポークピッツ　ミオリストランテロース生ハム

東京工場

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力(kwh/t)	973	976	946	959	1,006
燃料(l/t)	137	135	131	137	137
総エネルギー(l/t)	394	394	381	391	403
用水(m^3/t)	34	34	34	33	33
CO_2(kg-CO_2/t)	594	593	574	590	607

所在地
〒277-8586
千葉県柏市根戸1-3

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
排出量（t）	5,829	5,593	6,250	6,218	6,056
リサイクル率（%）	99.98	99.98	99.98	99.98	99.88

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	8.0	7.6	—
BOD(mg/L)	10	8	7.4	—	4.0
SS(mg/L)	20	16	7.0	—	3.6

4.大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm^3/h）	A（2基）	0.025	—	—	—
	B（12基）	0.272	—	—	—
NOx（ppm）	A（2基）	150	120	93	64
	B（12基）	150	120	76	43
ばいじん（g/Nm^3）	A（2基）	0.1	0.08	0.003	0.002
	B（12基）	0.1	0.08	0.001	0.001

東京工場では、ダンボール・廃油・金属くず・電線は有価物として売却、肉くずの一部も飼料として売却しています。廃プラスチック・台紙などは業者に委託して焼却・排熱利用、汚泥と生産工程から発生する肉くずは業者へ委託して肥料としてリサイクルし、ビンと陶器類以外はリサイクルしています。処理費を要していた廃棄設備、機械類も分解分別することで、大部分が有価物として売却可能となり、コスト削減にもつながっています。今後も徹底した分別で、廃棄物削減とリサイクル率の維持向上に努めていきます。

東京工場
環境管理室・室長
鈴木　勝雄

主な生産品目

アルトパイエルン

あらびきグルメウインナー

ラ・ピッツァ

伊藤ハムデイリー株式会社（東北工場）

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力(kwh/t)	1,610	1,549	1,430	1,467	1,324
燃料(l/t)	248	243	351	452	421
総エネルギー(l/t)	675	654	591	583	545
用水(m^3/t)	51	47	45	42	44
CO_2(kg-CO_2/t)	1,237	1,201	1,267	1,397	1,303

所在地
〒987-2195
宮城県栗原市高清水来光沢20

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
排出量（t）	3,743	3,681	4,316	4,851	4,807
リサイクル率（%）	33.0	38.7	58.7	87.8	93.7

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	8.3	7.4	—
BOD(mg/L)	160(120)	120(100)	7.3	—	4.4
SS(mg/L)	200(150)	100(50)	15.0	—	7.0

4.大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm^3/h）	A（5基）	8.74	0.5	0.06	0.05
	B（1基）	0.98	0.5	0.17	0.14
	C（6基）	3.16	2.53	0.06	0.05
NOx（ppm）	A（5基）	180	150	120	103
	B（1基）	180	150	100	88
	C（6基）	950	760	690	656
ばいじん（g/Nm^3）	A（5基）	0.3	0.1	0.007	0.006
	B（1基）	0.3	0.1	0.006	0.005
	C（6基）	0.1	0.08	0.03	0.02

東北工場は、緑と水の自然環境豊かなこの地域社会と共生することを目指し、「地球にやさしく、環境に配慮する工場」をスローガンに、積極的に環境活動を展開しています。活動テーマとして「エネルギーの削減」「用水の削減」「廃棄物の削減」を挙げて取り組んだ結果、特に電力使用量は生産原単位で前年度比9.7%の削減効果が得られました。また、廃棄物の分別を徹底した結果、リサイクル率は93.7%となりました。2年後には100%（ゼロ・エミッション）を達成できるよう取り組んでまいります。

伊藤ハムデイリー株式会社
東北工場
環境管理室・室長
大内　昭太郎

主な生産品目

チキンナゲット

やわらか煮こみ亭豚角煮

アルトパイエルン

船橋工場

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力(kwh/t)	1,510	1,499	1,461	1,538	1,434
燃料(l/t)	66	65	72	77	69
総エネルギー(l/t)	640	648	630	676	620
用水(m^3/t)	37	34	33	34	30
CO_2(kg-CO_2/t)	1,142	1,169	1,133	1,225	1,116

所在地
〒273-0014
千葉県船橋市高瀬町24-28

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
排出量（t）	1,752	2,051	2,150	2,555	2,677
リサイクル率（%）	50.0	48.6	52.4	75.2	78.7

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.3	6.9	—
BOD(mg/L)	350	250	190.0	—	94.8
SS(mg/L)	80	70	50.0	—	20.5

2004年度は、大規模使用設備に対し、重点的に対策を実施しました。その結果、「上水道」、「蒸気」使用量を前年対比11%削減することができました。ただ、「節電」、「廃棄物の減量」については効果が今ひとつでした。2005年度は、「節電」「廃棄物の減量」についてリベンジ。問題点を絞り込み、改善手法の見直しを実施したいと考えています。「節電」については2004年度同様、冷凍機・空調設備を、「廃棄物」については一番発生割合の大きい排水汚泥の削減について重点的に対策を実施します。

船橋工場
環境管理室・室長
太田　実

主な生産品目

巨匠の彩

元祖あぶり焼

ローストビーフ

伊藤ハムデイリー株式会社（小樽工場）

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力(kwh/t)	789	775	697	684	725
燃料(l/t)	110	119	106	108	120
総エネルギー(l/t)	319	324	291	289	313
用水(m^3/t)	26	26	20	18	20
CO_2(kg-CO_2/t)	580	601	537	537	586

所在地
〒061-3271
北海道小樽市銭函5-61-3

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
排出量（t）	179	233	220	221	213
リサイクル率（%）	36.1	72.0	99.0	99.98	99.98

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.7～8.7	6.5～8.5	7.9	7.4	—
BOD(mg/L)	300	300	48.0	—	26.8
SS(mg/L)	300	200	81.0	—	29.4

4.大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm^3/h）	A（2基）	0.58	0.3	0.2	0.2
NOx（ppm）	A（2基）	—	100	102	58
ばいじん（g/Nm^3）	A（2基）	0.4	0.1	0.2	0.06

小樽工場では、地球環境に配慮する「地球にやさしい工場」を目指し、エネルギーなどの使用量削減に取り組んできました。特に循環型社会の一役を担うため、廃棄物のリサイクル率はほぼ100%を維持しており、これも従業員が決め事を守り、さらに処理業者の方の協力があったからこその結果です。今後は「ISO 14001認証取得」という大きな目標に向かい、コミュニケーションを高めながら、全従業員が一丸となって目標達成と環境保全活動に取り組みます。

伊藤ハムデイリー株式会社
小樽工場
ES担当
岩木　明

主な生産品目

アルトパイエルン

あらびきグルメウインナー

朝のフレッシュロースハム

伊藤ハム食品株式会社（小矢部工場）

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力(kwh/t)	1,081	1,122	1,149	1,077	1,160
燃料(l/t)	150	154	163	168	161
総エネルギー(l/t)	436	451	468	477	468
用水(m^3/t)	35	35	41	40	32
CO_2(kg-CO_2/t)	793	817	853	873	850

所在地
〒932-0131
富山県小矢部市名畑5068

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
排出量（t）	225	221	218	230	256
リサイクル率（%）	35.7	36.5	36.2	65.7	75.1

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	6.0～8.0	6.0～8.0	7.4	6.9	—
BOD(mg/L)	50(30)	10(8)	3.2	—	1.3
SS(mg/L)	60(40)	30(10)	10.0	—	6.0

4.大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm^3/h）	A（2基）	2.1	0.1	0.06	0.05
	B（1基）	2.1	0.1	0.04	0.04
NOx（ppm）	A（2基）	—	150	107	106
	B（1基）	—	150	87	87
ばいじん（g/Nm^3）	A（2基）	0.2	0.1	0.01	0.01
	B（1基）	0.2	0.1	0.01	0.01

小矢部工場では、昨年、排水汚泥の脱水能力を向上させるため、脱水施設を更新し、汚泥の排出抑制に配慮しました。今後は、さらなる環境負荷の低減を図るため、ISO14001認証取得を目標に掲げ、全従業員一丸となり、目標達成に向けて準備しています。緑豊かなこの地をいつまでも守り続け、地域との共存を図るためにも環境に配慮した活動を推し進めていきます。

伊藤ハム食品株式会社
小矢部工場
ES室・室長
川崎　敏文

主な生産品目

アルトバイエルン

あらびきグルメウインナー

サンキョーミート株式会社（霧島ミート工場）

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力(kwh/t)	153	214	208	198	215
燃料(l/t)	6	12	11	12	11
総エネルギー(l/t)	70	69	67	64	68
用水(m^3/t)	3	4	3	3	3
CO_2(kg-CO_2/t)	98	108	104	102	105

所在地
〒886-0004
宮崎県小林市細野2516

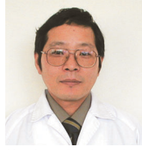
2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
排出量（t）	99	112	116	123	113
リサイクル率（%）	79.5	81.8	85.8	88.4	84.4

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	5.8～8.6	7.5	6.6	—
BOD(mg/L)	160	100	16.0	1.0	6.0
SS(mg/L)	200(150)	50	14.0	5.0	9.0

霧島ミート工場では、ISO14001認証取得後3年が経過しました。当工場は、電力使用量削減、廃棄物発生量削減、事務用紙使用量削減、グリーン購入の促進を主要な取り組みとして環境保全活動を推進しています。今後についても、地球環境の負荷低減を大きな目標に、周辺地域のすばらしい自然環境に悪影響を与えないように全従業員が一丸となって努力し、環境保全活動をさらに推進していきたいと思います。



サンキョーミート株式会社
霧島ミート工場
ISO14001事務局
吉永　則男

主な生産品目

豚カット肉

サンキョーミート株式会社（有明ミート工場）

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量（生産原単位）

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力(kwh/t)	280	302	257	271	268
燃料(l/t)	21	23	22	78	81
総エネルギー(l/t)	97	104	65	98	101
用水(m^3/t)	18	19	15	14	15
CO_2(kg-CO_2/t)	158	172	118	241	248

所在地
〒899-7402
鹿児島県曽於郡有明町野井倉6965

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
排出量（t）	878	785	976.2	1,184	1,273
リサイクル率（%）	99.8	99.1	99.7	97.4	88.6

3.排水の水質関係目標達成状況

	規制値	自主基準値	実測値		
			最大値	最小値	平均値
pH	5.8～8.6	6.0～8.0	7.5	7.2	—
BOD(mg/L)	30	15	16.0	1.0	3.5
SS(mg/L)	40	15	7.0	4.0	4.3

4.大気関係の目標達成状況

	施設名	規制値	自主基準値	実測値	
				最大値	平均値
SOx（Nm^3/h）	A（5基）	1.8	1	0.4	0.2
	B	—	—	—	—
NOx（ppm）	A（5基）	—	—	68	55
	B	—	—	—	—
ばいじん（g/Nm^3）	A（5基）	—	0.2	0.01	0.007
	B	—	—	—	—

有明ミート工場では、「事業活動を通じて地球環境への負荷を低減する」という環境方針のもと、電力の使用量削減、廃棄物の発生量削減、事務用紙の使用量削減やグリーン購入の促進を主要目標として掲げ、環境保全活動を行っています。周辺の豊かな自然環境に悪影響を与えない工夫や努力を惜しまず、周辺地域の環境整備活動にも積極的に参加し、地域と密着した環境活動を進めたいと考えています。

サンキョーミート株式会社
有明ミート工場
取締役工場長
楠本　幸二

主な生産品目

牛・豚カット肉

伊藤ハム物流株式会社（仙台共配センター）

1.エネルギー使用量と二酸化炭素（CO_2）排出量

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
電力(kwh)	1,234,842	1,359,893	1,384,841	1,406,256	1,708,878
ガソリン(l)	—	—	—	22,000	22,000
軽油(l)	—	—	—	694,584	700,679
CO_2(kg-CO_2)	—	—	—	1,873,901	1,889,896

電力の対象は仙台共配センター、青森（営）、秋田（営）、岩手（営）、宮城（営）、山形（営）対象
ガソリン、軽油使用量は全営業所の合計
CO_2排出量算定式：ガソリン換算値=燃料使用量（L）×単位発熱量34.6MJ/L×排出係数0.0671kgCO_2/MJ
軽油換算値＝燃料使用量（L）×単位発熱量38.2MJ/L×排出係数0.0687kgCO_2/MJ
— 部分はデータ未集計

所在地
〒983-0034
宮城県仙台市宮城野区扇町7-7-10

2.廃棄物の排出量とリサイクル率

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
排出量（t）	—	—	—	7	6
リサイクル率（%）	—	—	—	45	50

対象:仙台共配センター
— 部分はデータ未集計

2003年4月からISO14001認証取得に向けた活動を開始し、2004年3月ISO14001の認証を取得しました。2004年度は、従業員の環境に関する意識が高まったこともあり、当面設定していた目標数値より良い結果となりました。また、ドライバーが制限速度を守り、常に安全運転を意識することによって、燃費の大幅な向上と大きな事故の減少など、さまざまな効果がありました。2005年度は、より業務内容にマッチングした目的・目標を掲げて活動を展開いたします。

伊藤ハム物流株式会社
常務取締役
羽生　喜幸

※デイリー物流株式会社は、2005年4月1日付で伊藤ハムグループの伊藤ハム物流株式会社とアイ・エイチ物流株式会社と合併し、新たに伊藤ハム物流株式会社として発足しました。

環境を守るための工場での取り組み

ようこそ伊藤ハムの工場へ。
私たちは、工場が地域や地球の環境に及ぼす影響を
できるだけ少なくするために、いろいろな取り組みをしています。
ここでは、その中から3つの取り組みをご紹介します。

ごみを出さない工夫と、徹底した分別とを進めています

なぜごみを減らさないといけないの?

日本は今、ごみの量が多すぎて埋め立てをする場所が足りなくなっています。工場からは家庭よりもうんと多くのごみが出るので、まずはごみを出さない工夫が大切。リサイクルできるものはリサイクルして、少しでも埋め立てするごみを減らそうとしているんです。

どんなごみが出るのですか?

食品のくずや泥状のごみ、ダンボールやコピー用紙などの紙類、生産工程から出る肉くずやハムくずなどが多く出ます。とくに食品のくずは、肥料や、動物のえさにリサイクルしているんですよ。

リサイクルできないごみは、どうしているの?

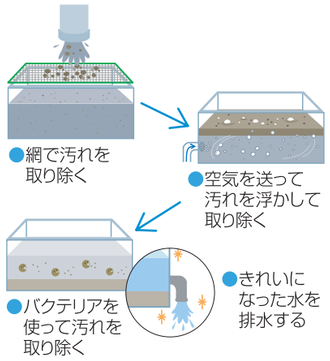
きちんと分別した上でごみを処理してくれる業者の方に引き渡し、お金を払って適正に処理してもらいます。引き渡すときには、少しでも多くのごみが一度で運べるように、ごみをプレス機で押しつぶして渡すなどの工夫をしています。

なるほど!
ごみを減らす工夫が大切なんですね!

汚れた水を、鯉が住めるくらいにきれいにして放流しています

汚れた水は、どのようにしてきれいにするのですか?

汚れた水は、いろいろな設備で何段階にも分けて汚れを取り除きます。きれいになった水は、公共の用水路や下水道に排水し、きれいな水にする過程で出た汚れ(ドロなど)は、専門の処理業者の方に適正に処理してもらいます。



いろんな機器をつかっているんですね!?

きれいにした水を排水する前には、本当にきれいになったかどうかをいろいろな機器を使ってチェックしています。また、いやなニオイが流れて周りの人たちに迷惑をかけないように、ニオイをとる装置も備えているんですよ。

どのくらいきれいになるんですか?

工場にある池にも放流しているのですが、飼っている鯉が住めるくらいにきれいですよ。ほかに、芝生への水まきなどにもこの水を使っています。

なるほど!
水をきれいにするのは大変なんですね!

働くみんなが環境のことを考え、できることを一生懸命に進めています

ほかにはどんなことをしているのですか?

みんなで工場の周りの道路や溝などを掃除したり、工場の人たちに環境のことをもっと知ってもらうための勉強会を開いたり、「環境マネジメントシステム」と呼ばれる環境を守るための取り組みを進めたり。いろんな仕事をしているんですよ。

私たちの質問に答えてくれているのも、そのひとつなんですね!?

皆さんのようなお客様や、工場の近くに住んでいる方々、それに他の会社や役所の人たちに、伊藤ハムが行っている活動をきちんと知っていただくことは、とても大切なことなんですよ。

伊藤ハムのほかの工場は、どこも同じように取り組んでいるのですか?

そうですよ。まちがって汚れた水を流すなどの環境の事故を起こさないように細心の注意を払って毎日の仕事をしています。また、私がほかの工場に行って活動状況を確認したり、ほかの工場の人がここの工場に確認しにくるなど、お互いにチェックしあっています。

なるほど!
みんなが力を合わせて環境を守っているんですね!

「2004年環境報告書」アンケート結果について

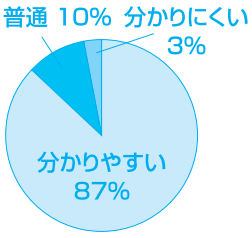
伊藤ハム「2004年環境報告書」（2004年6月発行）アンケートに多数お答えいただきました。皆様からお寄せいただきました貴重なご意見・ご感想は、環境保全活動や社会・環境報告書の制作に役立たせていただきました。誠にありがとうございました。今年度も裏面が「2005年社会・環境報告書」アンケート用紙となっております。本報告書を読まれてのご感想やお気づきの点などございましたら、ご記入の上ご送付いただければ幸いです。皆様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考にさせていただき、環境保全活動の取り組みや社会・環境報告書の制作を進めてまいります。　2005年6月

伊藤ハム株式会社　環境安全推進室　〒663−8586　兵庫県西宮市高畑町4番27号
TEL：0798−66−1289　FAX：0798−66−1302

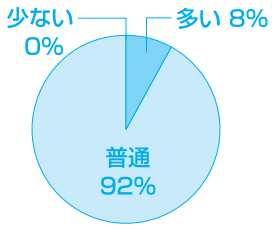
「2004年環境報告書」アンケート集計結果（回収数39通）

1.「2004年環境報告書」の評価グラフ

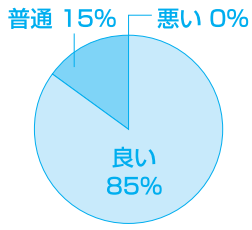
①内 容



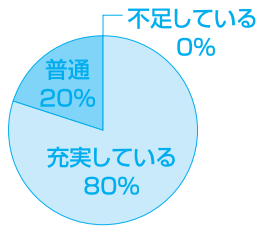
②ページ数



③デザイン

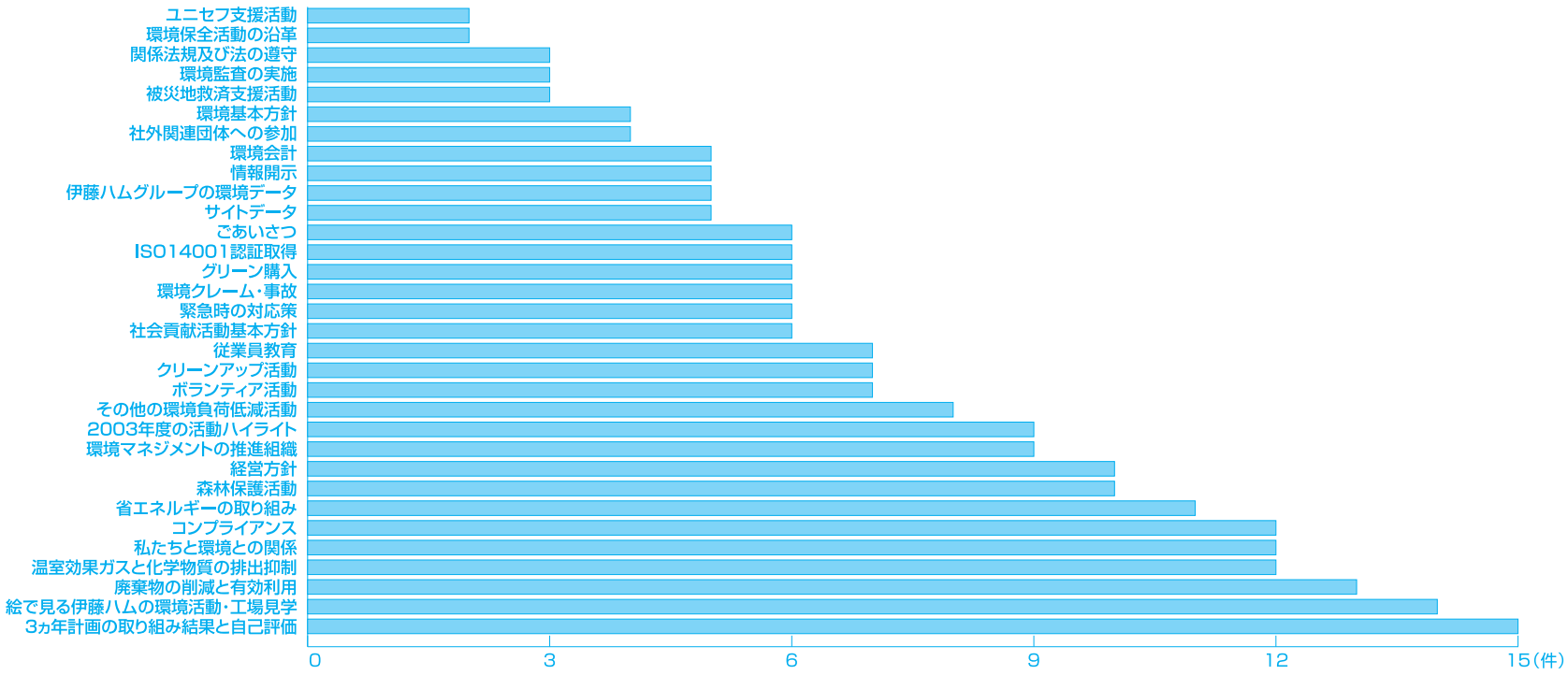


④活動項目

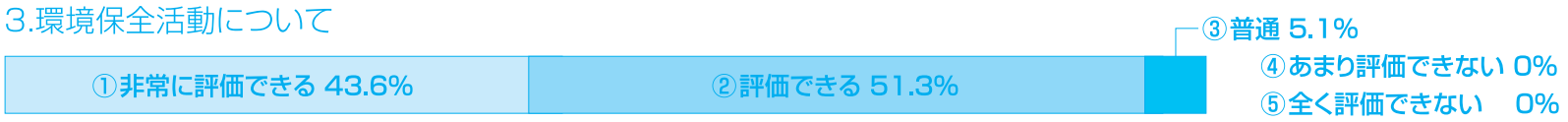


<いただいたご意見・ご感想>
- ●カラーでわかりやすく、きれい。
- ●目標を設定し、それに向かい努力しているのがよく伝わりました。
- ●事業内容について、環境面からよく理解ができました。
- ●環境保全に取り組む食品業界のリーディングカンパニーとしてさらなる継続・発展に期待します。
- ●もっと図やグラフを活用したほうが読みやすくなると感じました。
- ●幅広く環境活動している様子が窺えるが、もう少し掲載内容を絞ったほうがよい。

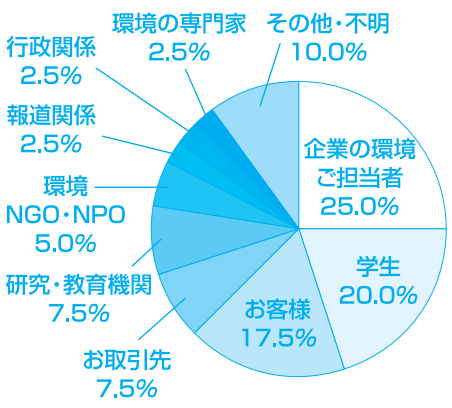
2.「2004年環境報告書」の中で興味を持った内容　（件数:回答総数233件の内訳）



3.環境保全活動について



4.環境報告書をどのようなお立場でお読みになられていますか。



5.「2004年環境報告書」や環境保全活動についてのご意見の一部をご紹介します。

- ●前年度よりわかりやすく、目的に対する表示もはっきりしています。写真が良い。
- ●とてもわかりやすく、特に右隅に掲載されているQ&Aがよかった。
- ●サイトデータの中で環境管理責任者の方が工場としての環境に対する意気込みをもって環境活動を推進していることが良くわかります。
- ●独自の厳しい目標値を設けて取り組んでいるところにとても感心いたしました。
- ●環境報告書が充実していくことが環境対策のレベルアップにつながると考えます。環境組織スタッフの活躍を期待しています。
- ●インプット増でも環境負荷を低減できる取り組みを続けてください。
- ●廃棄物のリサイクル率が89.4%と高い値だったので大変驚きました。
- ●すべての分野において情報が開示されており、面白く拝見させていただきました。
- ●内容に具体性を持たせるため、事例報告があると良いと思います。
- ●製品の原材料調達面をもっと詳しく説明してほしい。
- ●コンプライアンスが特に分かりやすい。意識調査結果の一部を掲載しても良いのでは。
- ●社会貢献活動をもっと広くアピールされればよいと感じました。
- ●社会貢献活動基本方針を明確に打ち出している点がすばらしい。
- ●この報告書のように大人の消費者や株主向けのものだけでなく、子供（小中学生）用の報告書もつくり、御社の環境保全活動をアピールするだけでなく学習という面でも貢献してみてはどうかと思いました。

「2005年 社会・環境報告書」アンケート

● ご意見・ご感想をお聞かせください。●

伊藤ハム株式会社　環境安全推進室　行き
〒663−8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号
FAX　0798-66-1302

Q1. 本報告書をお読みになっての評価をお聞かせください。

●内容	□分かりやすい	□普通	□分かりにくい
●ページ数	□多い	□適当	□少ない
●デザイン	□良い	□普通	□悪い
●活動項目	□充実している	□普通	□不足している

Q2. 本報告書の中で、興味をもった内容についてお聞かせください。（複数回答可）

【会社基本項目】　1）会社概要　2）ごあいさつ　3）経営方針
【環境報告】　4）第2次中期環境目標の取り組み結果と自己評価　5）環境と私たちの関係をご紹介します　6）2004年度の活動ハイライト　7）環境マネジメントの推進組織　8）環境監査　9）ISO14001認証取得　10）グリーン購入　11）関係法規及び法の遵守　12）環境クレーム・事故　13）緊急時の対応策　14）環境会計　15）省エネルギーの取り組み　16）廃棄物の削減と有効利用　17）温室効果ガスと化学物質の排出抑制　18）その他の環境負荷低減活動　19）情報開示　20）従業員教育・地域とのコミュニケーション　21）環境保全活動の沿革
【社会性報告】　22）コンプライアンス　23）社会貢献活動理念　24）活動方針　25）大切な自然を保護する活動　26）支援活動など　27）安全衛生と健康づくり　28）その他の社会性報告　29）みんなの声
【環境データ集】　30）伊藤ハムグループの環境データ　31）サイトデータ　32）環境を守るための工場での取り組み

Q3. 弊社の環境保全活動について、どのようにお感じになりましたか。

1）非常に評価できる　2）評価できる　3）普通　4）あまり評価できない
5）全く評価できない　［その理由：　　］

Q4. 弊社の環境保全活動について期待されることは何ですか。

Q5. 弊社の社会活動についてどのようにお感じになりましたか。

1）非常に評価できる　2）評価できる　3）普通　4）あまり評価できない
5）全く評価できない　［その理由：　　］

Q6. 本報告書をどのようなお立場でお読みになりましたか。

□お客様　□お取引先　□製品の購買ご担当者　□株主　□金融・投資機関　□研究・教育機関　□報道関係
□行政関係　□環境NGO・NPO　□伊藤ハムグループ事業所の近隣にお住まいの方　□学生　□環境の専門家
□企業の環境・CSRご担当者　□その他（　　）

Q7. 本報告書の内容や環境保全活動、及び社会活動に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。さしつかえなければ、下記にもご記入ください。
個人情報に関しましては、ご本人の承諾がない限り、第三者に開示することは一切ありません。

お名前		性別	男・女	年齢		ご職業・勤務先	
ご連絡先	ご住所	〒					
	TEL						
	FAX						
	e-mail						

●次年度の「社会・環境報告書」の送付を希望されますか？　□はい　□いいえ

環境保全活動、社会活動などについてのお問い合わせ先

伊藤ハム株式会社環境安全推進室
〒663-8586　兵庫県西宮市高畑町4番27号
T E L：(0798) 66-1289
F A X：(0798) 66-1302
U R L：http://www.itoham.co.jp
E-mail：eco@itoham.co.jp

発行　2005年6月

有害な廃液の出ない水なし平版
印刷方式で、印刷しています。

古紙配合率100%再生紙を
使用しています。

アロマフリー型大豆油インキを使用
しています。

次回発行予定　2006年6月